

令和 2 年度使用小学校用

教科用図書調査報告書

令和元年 7 月

津市教科用図書調査研究委員会

報告順

国語 (4者・6学年分)

書写 (5者・6学年分)

社会 (3者・4学年分)、地図 (2者)

算数 (6者・6学年分)

理科 (5者・4学年分)

生活 (7者・2学年分)

音楽 (2者・6学年分)

図画工作 (2者・6学年分)

家庭 (2者・2学年分)

保健 (5者・4学年分)

道德 (8者・6学年分)

英語 (7者・2学年分)

国語

【様式1】
小学校用教科用図書調査実施項目結果一覧表
教科名〔 国語 〕

◎特に優れている

○優れている

4者

1/1

調査実施項目	教科書の名称 発行者の番号・略称									
	国語 38・光村		新しい国語 2・東書		ひろがる言葉 17・教出		みんなと学ぶ 11・学図			
	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由		
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	○	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	全体を見通す場面や振り返る場面の設定、グループで対話・助言し合う場面の位置づけなどにより、児童自身が深く考えることができるよう工夫されている。	○	2年下から、単元の目標を「つかむ」のページで具体的に示し、問いかける内容になっているため、児童自らが解決策を考える学習ができるよう工夫されている。	○	理解力と表現力を高めるための重点的に学ぶ事項の設定や、見直しと振り返りの位置づけによる主体的な学びが促されている。各教材に協働して課題解決を図り深い学びを実現できるような配慮がされている。	○	教科書の題名が「みんなと学ぶ 小学校国語」となっており、主体的・対話的に学ぼうとする姿につながっている。2年生以上では、各学年上巻はじめに教科書の使い方・国語の学び方が載っており、自ら学ぼうとする意欲につながっている。
	○	(2)言語能力の育成を図るための工夫	○	活動に取り組みやすいように身近な課題や題材が配置され、言語活動に取り組みたくなる工夫がされている。また、知識を活用するための実践的な視点が提示され、「いかそう」では知識活用場を例示し、「言葉について考えよう」では「書く」活動が設定されている。	○	「言葉の力」として明確化し、学習の基盤として習得すべき「知識・技能」をおさえる「欄」において随所に明示するなど、学んだ言語能力を今後の学習等に活用できる基礎的・基本的な言語能力の育成を習得できるようにしている。	○	教科書名称が「ひろがる言葉」となっており、言葉の学び、語彙を増やそうというしかけや働きかけが工夫されている。様々な言語活動が取り上げられている(ミニディベート、観察記録文、リーフレット等)。	○	2年以上では、巻頭に「見つける・見つめる」があり、言葉集めや書くための「たね集め」を推奨している。巻末に「言葉の部屋」があり、国語辞典で調べることや作文等で使うことを促している。
	◎	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	教材ごとに教科書連動コンテンツ「広がる学び 深まる学び」を設定し、学習の参考となる資料が活用できるようになっている。インターネットの検索方法や、デジタル機器を使ったプレゼンテーションなど、情報活用能力の育成に向けた活動が多く取り入れられている。	○	Dマークコンテンツを示し、関連資料を参照できるように工夫している。インターネット上の投稿を眺み比べ議論の参加の仕方などを考える、プレゼンテーション資料制作やパソコン等を使って作業するなど、情報活用能力の育成に向けた工夫がされている。	○	学習時に参照できる資料等を、ウェブサイト(まなびリンク)で見られるようにしている。情報を集めて活用するにあたり、メディアの特徴について考える単元が設けられており、情報活用能力の育成に向けた工夫がされている。	○	QRコードを設定し、補助資料へのリンクが可能となっている。インターネット上の情報の取り扱い方を考えさせたり、「電子メールで質問しよう」という教材もあり、情報活用能力の育成に向けた工夫がみられる。
	○	(4)学習の見直しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	2年以上では、巻頭の折込ページ「国語の学びを見わたそう」に年間の学習が分かるように示されている。また、単元ごとの「見直しをもうけよう」「何を、どのように学ぶか」などが明確化されている。終わりに、知る、読む、つなぐの項目が提示され、振り返り活動ができる工夫がされている。	◎	6年間を通して「言葉の力」について見直しを立てている。各単元の最初のページ「つかむ」につける力が明確に示され、最後のページ「振り返る」に振り返ることが書かれており、学習の見直しができる内容になっている。	○	新学習指導要領で示された学習過程が4ステップ構造(確かめよう・考えよう・深めよう・広げよう)になり、明確化されている。	○	上・下巻それぞれに相互の内容が記載され、見直しを保持したり学習を振り返ったりすることができる。注釈では、全学年統一したマークが使用されている。巻末の「広げよう たしかめよう」に発展的な内容が示され、主体的な学習を促している。
	○	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	地域や地域の文化に対する関心を高め、理解を深め、愛着や誇りをもつことができるよう単元や教材が工夫されている。					○	地域社会との連携を図る主体的な学びを設定している。3年「遊びをくらべよう」4年「安全マップを作って話し合おう」5年「働く人にインタビュー」6年「日本の魅力、再発見」等。
	◎	(6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	◎	入門期にはイラストなどを配り多くの言葉が生まれる工夫がある。保分等での経験を生かした教材や親しみやすい教材が準備され、主体的に学びに向かう姿勢づくりの工夫がある。各学年で子どもの知的好奇心を惹く教材や単元構成になっており、「この本、読む」「学習を広げよう」など、学習を支える工夫がされている。	○	巻末の付録のページに、それまでの学年で学習した「言葉の力」や「学習で使う言葉」、「言葉の広場」として資料がまとめられており、それらを使って、自主的に学習を進めていけるような工夫がされている。	○	巻末付録で表記に関する資料、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関するもの、図書資料等、さまざまな要素を取りあげている。	○	学年末には、現学年の学びを振り返る内容と次の学年への意欲を高めるような内容が配置されている。巻末に「授業で使う言葉」「国語のカギ」が4観点において示されており、活用できるようになっている。
	○	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	単元の終わりの「たいせつ」「いかそう」には、他単元や他教科、日常生活にいかすアドバイスが記述されており、次へつなげるための意欲づけや手立ての工夫がされている。					○	他教科の学習への活用、関連づけができるよう、題材が選定されている。
2 使用上の便宜	○	(1)内容の配列、分量についての特徴	○	各学年の発達段階や、系統性などが考慮されている。内容面でも充実した学習ができるように配列されている。分量についても精選されたものが取り上げられており、児童に負担なく学習できるようになっている。						
	○	(2)判型、分冊等、造本上の特徴	○	1年から4年までは上下分冊、5・6年は1冊となっている。5・6年では年間を通じて1冊で構成されており、中学校入学時の環境変化に配慮されている。	○	1年から4年までは上下分冊、5・6年は1冊となっている。5・6年では年間を通じて1冊で構成されており、中学校入学時の環境変化に配慮されている。	○	全学年上下2冊になっており、持ち運びに適している。また、新しい教科書に出会う機会を1年に2回設定している。	○	全学年上下2冊になっており、持ち運びに適している。また、新しい教科書に出会う機会を1年に2回設定している。
	○	(3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫	○	目次には単元名だけでなく活動のねらいが示されており、学習の指針がはっきりと分かる。巻末には、言葉の宝庫として、語彙を豊かにしたり、学ぶことが見えたりできるように一覧にまとめている。	○	目次に学習の進め方について書かれているので、学習の進め方がわかる。言葉の力を三領域ごとに分けて示している。	○	2年以上では、教科書冒頭に「○年生で学ぶこと」が設けられており、どんなことを学ぶのか、どんな国語の力が身につくのか、1年間の学習の見通しが待てるように配慮されている。	○	目次には単元名だけでなく、活動のねらいが示され学習の指針がはっきりと分かる。巻末には、「授業で使う言葉」国語のカギ「言葉の部屋」があり、語彙を豊かにしたり、学ぶことが見えたりできるように一覧にまとめている。
	○	(4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮	○	紙面のイラストや資料の提示の仕方(各資料との境目、グラフの記号の工夫)、色調への配慮(カラーユニバーサルデザイン)、文字の大きさや太さなど、子どもへの負担や活動への支障がないように工夫されている。					○	読みやすさを配慮した字詰・行数や、カラーユニバーサルデザインに配慮された色づかいとなっている。また、「学習の進め方」の欄を設け、児童が学習の見直しをもち、本時で何を学習するかがわかるように配慮されている。
3 その他	○	その教科書の特徴(記述)	○	各学年の教科書に名前が付けられており、新学年や新しい教科書に期待がもてるようになっている。					○	学習指導要領の示すとおり、上巻では2学年ごとのまとまりを意識した学習内容紹介の見開きページがある。そのページのイラストが特徴的である。

書 写

調査実施項目	教科書の名称 発行者の番号・略称													
	新しい書写 2・東書		みんなと学ぶ 11・学図		小学 書写 17・教出		書写 38・光村		小学書写 116・日文					
	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由				
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の見直しと振り返りが充実している。 ・「書写の学び方」を学べる工夫がある。 ・協働的な学びの姿を例示している。 ・単元ごとに自分のめあてを書き込める。 								○	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習する力を身につけるよう「この教科書の使い方」「書写学習の進め方」が掲載されている。 ・自分のめあてを設定して書き込み、学習内容を進めていくことができる。 		
	(2)言語能力の育成を図るための工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・書写で学習する用語を『書写のかぎ』として常に示し、言語活動の充実を図っている。 ・3年生以上で、俳句や和歌などの日本の伝統的な言語文化にも触れている。 ・文字の一覧表・漢字の配当表を活用できる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「書写の資料館」で文字に係わる資料を掲載している。 ・文字の一覧表・漢字の配当表を活用できる。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな一覧表・漢字図鑑を活用できる。 ・国語科の教科書の教材内容と連動している。 					
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで教材文字の運筆動画で繰り返し見ることができる。 ・運筆等学習の参考となる指導用デジタルコンテンツを利用できる。(QRコード有り) ・学習者用デジタル教科書を発行予定である。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで教材文字の運筆等動画で繰り返し見ることができる。 ・運筆等学習の参考となる指導用デジタルコンテンツを利用できる。(QRコード有り) ・学習者用デジタル教科書を発行予定である。 									
	(4)学習の見直しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「集めて使おう『書写のかぎ』」を活用して1年間の見直しを促すよう工夫され、振り返りのヒントも掲載されている。 ・知識技能の振り返りだけでなく、「どのように学んだか」「学んだことをどう生かすのか」という内容を観点に含んでいる。 ・各学年「見つけよう」「たしかめよう」「生かそう」「話し合おう」「広げよう」といった見出しで書写の学び方を示し、学びに対話を取り入れている。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、学習の進め方を、めあて・思考・練習・振り返りの4段階でまとめている。 ・試し書き・まとめ書きの欄があり、自分が書いた字について見比べて、振り返りを行うことができる。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を明確にするために「①考える②確かめる③いかす」の3段階の学習コーナーが設定され、書写の原理・原則が身につくように工夫されている。 		
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育、防災・安全教育、国際理解・グローバル教育、キャリア教育、環境教育などの課題に係わる題材や活動を取り上げ、書くことで理解を深められるよう配慮されている。 ・オリンピック・パラリンピックへの関心を高める工夫がされている。 											
	(6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「文字のいずみ」で文字の世界を広げて知的好奇心を育む工夫がなされている。 ・作品づくりに役立つ消しゴム印づくりを取り入れている。 ・しよしゃ体験を紹介し、児童の関心を高める工夫がなされている。 									○	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材の「めあて」と「できたかな」により自己評価をする工夫がされている。 ・キャラクターの発音で、児童の関心を高められている。 ・作品づくりに役立つ消しゴム印づくりを取り入れている。 	
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・活用単元「生活に広げよう」で、生活に活用できる書写力を生かす事を意識化している。関連教材にマークをつけて意識付けをしている。 ・はがき、手紙、ノートなど日常に役立つ教材が取り入れられている。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ・トライ」「書いて伝え合おう」のページで習得した書写の力を他教科で日常活用できるようにしている。 ・手紙やはがきが書ける工夫、横書きやノート指導など日常に役立つ教材が取り入れられている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科書と連動した教材を各学年で二つ以上設定している。 ・横書きやノート指導などの教材で日常に役立つ工夫がなされている。 ・手紙の書き方や横書きの書き方などが書写ブックとしてまとめられている。 		◎	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科・総合・日常生活との関連を図った「生活と書写」という特設ページが設定されている。 ・横書きの教材が取り入れられている。 ・ノート、はがき、手紙、原簿用紙など日常に役立つ教材が取り入れられている。 		
2 使用上の便宜	(1)内容の配列、分量についての特徴	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1ページ当たりの分量が適当である。 ・イラストや図版に使う色の数や分量を制限し、教材文字に集中できる。 									○	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーが多く、分かりやすい。 	
	(2)判型、分冊等、造本上の特徴	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・A B版のワイドな紙面で、見開きの手本が半紙サイズにより近く見やすい。 ・毛筆実物大手本が充実している。 ・拡大教科書発行を予定している。 											
	(3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生の巻末に耐久性に優れた水書用紙がついており、運筆動作の指導に役立つ。 ・書写で学習する用語をインデックス『書写のかぎ』として常に示すことで定着を図っている。 										◎	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生の巻末に教科書サイズの水書シートがついており運筆動作の指導に役立つ。サイズが大きいので、ゆったり書くことができる。
	(4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・点画を分解し、全面の色を塗って、どこまでが一筆なのかを理解しやすく表記している。 ・擬音語やキャラクターの動き、記号などを効果的に使い多感覚に働きかける工夫をしている。 ・「とん」「すう」「びた」「すつ」といった表現で運筆を導いている。 ・「べた」「びん」「とん」といった表現で姿勢を導いている。 ・色覚多様性や利き脳への配慮が見られる。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・色覚等の特性を踏まえた判読しやすい配色を工夫しているが、点画の色分けが少ない。 ・「とん」「びた」「すう」といった表現で書き方を導いている。 ・「こしびん」「あしべた」「ぐうひとつ」といった表現で姿勢を導いている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・活字の読みやすさを追求したユニバーサル書体を用いている。 ・「トン」「スー」「トン」といった表現で書き方を導いている。 ・「べた」「びん」「ぐう」といった表現で姿勢を導いている。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインへの配慮がされている。誰もが識別できる工夫がされている。 ・多色で分かりやすい。 ・「ぐうつ」「とん」「ちよん」といった表現で書き方を導いている。 ・イラストが分かりやすい。 		
3 その他	その教科書の特徴（記述）	○	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆、硬筆の手本の字形、筆使いが優れている。 								◎	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆、硬筆の手本の字形、筆使いが優れている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆、硬筆の手本の字形、筆使いが優れている。

社 会

調査実施項目	小学社会 116・日文		新しい社会 2・東書	
	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	◎	・「見方・考え方コーナー」を設け、「空間」「時間」「関係」の3つの視点で、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせる手立てとなるよう紙面構成とされている。 ・紙面上で6名の登場人物の学習や探求を行うことで、学習者（児童）の学習意欲を喚起するとともに、主体的・対話的な活動の参考にできるよう工夫されている。	○	・どの単元の学習においても、「つかむ」「調べ」「まとめる」「いかに」の学習段階をたどりながら、学習の進め方を分かりやすく示し、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせる手立てとなる紙面構成とされている。 ・「ドラえもんを目印に社会の見方・考え方を、「位置や空間の広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」「比較・分類、総合、関連付け」の4種類の見方・考え方を示し、問題解決的な学習を視覚的に促すよう工夫されている。
	◎	・3年「わたしたちの住んでいる市のようす」P38ではガイドマップ、「店ではたらく人びとの仕事」P86ではキャッチコピー、4年「世界とつながる地いき」P189ではカルタ等、「学び方・調べ方コーナー」に多様な言語活動・表現方法を用いた学習を例示する工夫がみられる。 ・4年「わたしたちのまちに伝わる祭り」P123では、テーマを決めての話し合い等の言語活動・表現方法を用いた学習を例示する等の工夫がみられる。 ・随所に「学び方・調べ方コーナー」「やってみようコーナー」、「キーワード」（例：5年P94）が掲載される等、言語活動を充実させる手立てが工夫されている。	◎	・3年「農家の仕事」P51では宣伝シール、4年「谷に開かれた大地に水を引く」P130・131では表彰状、6年歴史編「細文のむらから古墳のくまへ」P23では社説を書く新聞作成、「貴族のくらし」P41でキャッチコピー等、「武士の世の中へ」P54では4コマ漫画「戦国の世から天下統一へ」P74・75ではパネルディスカッション等の多様な言語活動・表現方法を用いた学習を例示する等の工夫がみられる。
	○	・「ポイントカードを使った情報の活用」5年P218のように、学習に関連する資料の所在を「デジタルマーク」で示すことで、学習内容に応じたデジタルコンテンツ（映像・画像等）を入手でき、家庭学習等での活用が期待できる。 ・5年「情報をつくり、伝える」では「情報社会の問題」P202・203を取り上げ、インターネットを使った情報収集の仕方やメディアリテラシーを身につけることの必要性を示している。	◎	・「東条・十二単」6年歴史編P38のように、学習に関連する資料の所在を「D（デジタル）マーク」で示すことで、学習内容に応じたクイズや動画、学習に役立つ情報を入手でき、家庭学習等での活用が期待できる。 ・4年「特色ある地域と人々のくらし」P149や5年上「水産業のさかんな地域の人たちの工夫や努力」P108・109では、ICTを活用した学習活動が設定されており、5年下「情報を生かすわたしたち」P92・93ではインターネットを使った情報収集の仕方やメディアリテラシーを身につけることの必要性を示している。
	◎	・「学び方・調べ方コーナー」や「やってみようコーナー」により、学習の進め方の理解が深められ、調べたことや考えたことをどのようにまとめるかの見通しが立てられるよう工夫されている。 ・5年「日本の食料の産地」P70・71のように、生活経験や資料等から学習問題を考え、調べ、追究し、話し合い、表現する学習過程を基本に紙面構成されている。	○	・3年「学習の進め方」P18・19では学習課題を設定し、児童の思考に沿った学習の過程を例示する等、問題解決的な学習の見通しが立てられるよう工夫されている。 ・5年下「情報を生かすわたしたち」P96では情報をどのように活用し生かすか「まとめる」例を示す等、学習したことを振り返らせられるよう工夫されている。 ・3～5年の巻末に、学年の学習内容をさまざまな方法で振り返る場が掲載されている。
	◎	・3年「うづりかわる市とくらし」P126～129では市立博物館、4年「わたしたちのまちに伝わる祭り」P114では歴史文化博物館等を直接訪ねて見学したり、調査したりする活動を紹介している。 ・4年「わたしたちのまちに伝わる祭り」P120では伝統芸能振興会関係者、6年「今に伝わる室町の文化と人々のくらし」P114では野村万作を取り上げる等、その学習に関わる専門家と連携を図る活動を紹介している。 ・5年「低地に住む岐阜県海津市の人々のくらし」P46～54では輪中、「自動車工業のさかんな地域」P142～157では本田技研工業鈴鹿製作所が、「環境とわたしたちのくらし」P238～242では四日市公害が、それぞれ取り上げられており、本市の児童が実際に見学できる位置にあり、学習対象を身近に感じられることから、意欲的・主体的な探究が期待できる。	○	・5年下「環境を守るわたしたち」P138・139、6年政治・国際編「公園づくりについて話し合おう」P58・59等を通して、社会参画の基礎を培う学習を例示している。 ・3年「市の様子と人々のくらしのうづりかわり」P136・137では文化博物館、6年歴史編「町民の文化と新しい学習」P96では本居宣長の旧宅等を直接訪ねて見学したり、調査したりする活動を紹介している。 ・4年「残したいもの 伝えたいもの」P105では公衆浴場従業員、6年政治・国際編「日本とつながりの深い国々」P88では大使館員を取り上げる等、その学習に関わる専門家と関係者と連携を図る活動を紹介している。 ・4年「遊園地シミュレーション」P94・95では、学習したことを生かして社会的な活動に参画したり、提案・発信したりする学習場面を例示している。
	◎	・各学年の巻頭に「この教科書の使い方」を掲載し、学年を通しての見通しを持たせることで、学年を通じた振り返り活動が期待できる。 ・3年「スーパーマーケットの店内のようす」P71・72、6年「大昔のくらしとくに統一」P54のように、写真やイラストを大きくし、原則、見開き2ページにまとめ、学習対象の特徴的な情報が視覚的に捉えやすくなることで、児童の自発的・主体的な学習が期待できる。	○	・4年「特色ある地域と自分たちのまちなみや伝えよう」P174、6年歴史編「室町文化を体験してレポートを番こう。」P62、「絵巻で見る、江戸時代の人々」P88・89等、体験的・発展的な活動を例示している。 ・6年歴史編「東京大空襲の様子」P136・137のように、写真や想像図・絵画資料には見開き2ページに同じ番号をつけ、実写のイラストと、児童の自発的・主体的な学習が期待できる。
	◎	・5年「自然災害から人々を守る」P269では、本市も震源の範囲となる南海トラフ巨大地震に関する記述が掲載され、防災教育と関連した学習が期待できる。 ・4年「くらしをささえる水」P43では算数、4年「津波による災害」P94では国語、5年「森林とわたしたちのくらし」P257の理科等のように、他の教科とかわりのある学習内容が掲載されている。	○	・3年「農家の仕事」P39では算数、3年「店ではたらく人」P81では外国語、5年下「自然災害を防ぐ」P109では理科のように、他の教科とかわりのある学習内容のページに「教科関連マーク」を示し、他の教科とかわりのある学習内容が掲載されている。
2 使用上の便宜	○	・3年「地図帳の使い方」P156・157、4年「地図となかよくなるよう」P194・195等で、地図帳や地球儀を活用する学習を掲載している。 ・生活科から社会科への接続の観点から、3年巻頭に「社会科の学習へようこそ」を掲載し、生活科で培った学習を基礎として、新しい教科が始まることに期待を持たせる紙面構成としている。	○	・地図帳を3年生から使用することを受け、3年巻頭に「地図帳を使おう」P5、4年巻頭に「地図帳を使ってみよう」P6で、地図帳を活用する学習を掲載している。
	○	・各学年1冊とし、軽量化した再生紙を使用し、重量の負担の軽減が図られている。	◎	・3年・4年は1冊、5年は上・下、6年は「歴史編」・「政治・国際編」と学年2冊構成としており、重さに配慮されている。
	◎	・選択学習が多い4年の目次P3では、吹き出しを用いながら学習のねらいを解説しており、視覚的に学習の配列が分かりやすいよう工夫されている。 ・3～5年の索引では、国内の地名を地図上に掲載し、地理的な視点で学習できるよう工夫されている。 ・6年巻末P268・269には、人名・地名・主な事柄別の索引を掲載する等、各学年とも「キーワード」を整理し、学習で活用できるよう工夫されている。	○	・4年巻末P180の索引は「この教科書に出てきた主な都道府県」を掲載し、地理的な視点で学習できるよう工夫されている。 ・6年「歴史編」巻末P158・159に「日本の世界文化遺産」を掲載し、歴史学習と現在の状況を関連付けた学習ができるよう工夫されている。
	○	・ユニバーサルデザインを取り入れ、見やすさに配慮している。 ・グラフ・図は、色調や色の組み合わせ、斜線、ドット等により識別しやすいよう配慮されている。	○	・ユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすさに配慮している。 ・カラーバリエーションに配慮し、図表が形や模様により判別しやすいよう配慮されている。
3 その他	◎	・「人権教育の指導方法の在り方について 第三次とりまとめ」（人権教育の指導方法に関する調査研究会議）にある「人権に関する知的理解」が、社会科においても促進されるよう、6年「憲法と政治のしくみ」P16・17、「今に伝わる室町の文化と人々のくらし」P113、「武士による政治の安定」P138・139、「よりよく生きる権利を求めて」P190・191、「これからの日本」とわたしたち」P226等で、様々な人権課題を取りあげている。 ・5年「日本の貿易とこれからの工業生産」P183ではIoT、「情報をつくり、伝える」P197ではデジタル新聞、「情報を生かして発展する観光業」P227では指紋認証システム等、多様な社会的意味を見出す教材を掲載している。 ・6年「つながりの深い国々のくらし」P242～245では、アメリカ・中国・大韓民国とともに、本市で外国人住民数が多いブラジルを取りあげている。 ・「領土」については、5年「日本の国土と人々のくらし」P14～18、6年「日本の領土や国境をめぐる課題」P225で、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」は日本固有の領土であることと現在の状況が記載されており、「国際社会の中の日本」P223では「拉致問題」について記載されている。	○	・「人権教育の指導方法の在り方について 第三次とりまとめ」（人権教育の指導方法に関する調査研究会議）にある「人権に関する知的理解」が、社会科においても促進されるよう、6年歴史編「今に伝わる室町文化」P59、「人々のくらしと身分」P82・83、「新しい世の中の文化と生活」P108・109、「まわりの国と日本」P153等で、人権課題を取りあげている。 ・4年「水はどこから」P51ではESD（持続可能な開発のための教育）、5年下「情報を生かす産業」P74では人工知能（AI）、6年政治・国際編「世界の未来と日本の役割」P104・105ではSDGs（持続可能な開発目標）等、今日的課題を取りあげている。 ・6年政治・国際編「つながりの深い国々」P99では、アメリカ・中国・韓国・サウジアラビアに加え、本市で外国人住民数が多いブラジルを取りあげている。 ・「領土」については、5年上「世界の中の国土」P14・15、6年歴史編「まわりの国と日本」P153では、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」は日本固有の領土であることと現在の状況が記載されており、「まわりの国と日本」P153で「拉致問題」について記載されている。

調査実施項目		教科書の名称 発行者の番号・略称	
		小学社会 17・教出	
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の巻頭に「社会科の学習の進め方」を掲載し、問題解決的な学習の見取り図「つかむ」「つなげる」「調べる」「まとめる」を示すことで、学習の進め方を分かりやすく示し、主体的に解決への見通しが持てる紙面構成とされている。 紙面上で4名の登場人物が問いや発言を行うことで、社会的な見方・考え方を培う学習を意識させるとともに、主体的・対話的な活動の参考にできるように工夫されている。 5年「日本の工業生産と貿易・運輸」P144・145では、複数の資料を対比することで、特徴を捉えさせる学習を促す手だてが工夫されている。
	(2)言語能力の育成を図るための工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> 3年「はたらく人とわたしたちの暮らし」P91では「自分やまちを守るために、わたしたちができること」P110・111では紙面上で登場人物が、問題解決に向けて考え合い、表現し合う学習活動、4年「水害にそなえるまちづくり」P110・111では関係図、6年「歴史を学ぶ意味を考えよう」P230・231では意見文等の多様な言語活動・表現方法を用いた学習を例示する等の工夫がみられる。 各学年「解説」、「キーワード」(例：6年P110)が掲載される等、学習用語の定着を図る手だてが工夫されている。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> 「公害をなくすために」5年P232のように、学習に関連する資料の所在を「まなびリンク」で示すことで、動画・ワークシート・資料等を入手でき、学習での活用が期待できる。 3年「インターネットの調べ方」P163では、インターネットを使った情報収集やメディアリテラシーを身に付けることの必要性を示している。
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の巻頭に「前の学年をふり返ろう(3年は生活科をふり返ろう)」、巻末に「〇年生の学習をふり返ろう」を掲載することで、1年間学習の見直しを持たせ、学習したことを振り返らせられるよう工夫されている。 各見開きの末尾に「次につなげよう」を設け、一時間ごとの学習の帰結と次時の課題につながるよう工夫されている。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> 3年「かわる道具とくらし」P133では郷土資料館、6年「歴史の学び方をナビゲーション」P68・69では登呂遺跡等直接を直接訪ねて見学したり、調査したりする活動を紹介している。 4年「わたしたちの県のまちづくり」P165では伝統産業会館職員、6年「室町文化と力をつける人々」P121では野村萬斎を取りあげる等、その学習に関わる専門家と関係者と連携を図る活動を紹介している。 5年「自然災害とともに生きる」P204で「熊野川(新宮川)の氾濫」を、「環境をともに守る」P232で「四日市ぜんそく」についての記載がある。
	(6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の巻頭に「社会科の学習の進め方」を掲載し、次の学習へのつながりとともに、地域や社会にみられる課題解決に生かせることが期待できる。 6年「日本の歴史」では、「歴史の学び方をナビゲーションしよう!」P68・69を設け、身近な遺跡や史跡に関心を向けたり、歴史博物館を活用したりする活動場面を掲載し、歴史学習に向けて興味や関心が高められることが期待できる。 3年「スーパーマーケットの様子」P51や6年「町人の暮らし」P143等のような大きく細かなイラストを掲載することで、関心や疑問を引き出し、児童の自発的・主体的な学習が期待できる。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> 5年「環境をともに守る」P237「自然環境とわたしたちのくらしとの結びつき」で、6年理科とかかわりのある学習内容が掲載されている。
2 使用上の便宜	(1)内容の配列、分量についての特徴	○	<ul style="list-style-type: none"> 生活科から社会科への接続の観点から、3年巻頭の「生活科をふり返ろう」P1では、生活科の代表的な学習場面を起思させるコーナーを掲載し、両教科の円滑な接続が期待できる紙面構成としている。 6年では、単元「ともに生きる暮らしと政治」P64～67「日本の歴史」P230・231「世界の中の日本」間で、学習の連続性を考慮した次単元への導入の工夫がなされている。
	(2)判型、分冊等、造本上の特徴	○	<ul style="list-style-type: none"> 各学年1冊とし、本文用紙を軽量化し、重量的負担の軽減が図られている。
	(3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> 3年及び4年の巻末の索引は、当該学年で取り上げている都道府県を地図上で表記している。 5年及び6年の巻末の索引は、教科書に掲載されている語句を「キーワード」として太字で表記している。
	(4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮	◎	<ul style="list-style-type: none"> 色覚等の特性をふまえ、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、ユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすさに配慮している。 各学年の巻頭に、障がい者アートを掲載することにより支援する「パラリンアート」に取り組んでいる。
3 その他	その教科書の特徴(記述)	○	<ul style="list-style-type: none"> 「人権教育の指導方法の在り方について 第三次とりまとめ」(人権教育の指導方法に関する調査研究会)にある「人権に関する知的理解」が、社会科においても促進されるよう、6年「憲法とわたしたちの暮らし」P18・19、「幕府の政治と力をつける人々」P143・144、146・147、「明治の新しい国づくり」P173等で、歴史的な視点から人権課題を取りあげている。 5年「自然とともに生きる人々のくらし ～アイヌの人たち～」P45・56・57を取りあげ、国土の自然を生かし育まれた伝統と文化を尊重することの大切さに気づかせられることが期待できる。 6年「わたしたちの暮らしを支える政治」P32～47では、少子化・高齢化や人口減少、主権者としての意識を高める教育等、日本が直面する課題を取りあげている。 6年「日本とつながりの深い国々」P244～247では、アメリカ・中国・サウジアラビアとともに、本市で外国人住民数が多いブラジルを取りあげている。 「領土」については、5年「日本の国土とわたしたちのくらし」P14～16、6年「これからの日本とわたしたち」P226～227では、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」は日本固有の領土であることと現在の状況や「拉致問題」について記載されている。

地 圖

【様式1】
小学校用教科用図書調査実施項目結果一覧表
教科名〔 地図 〕

◎特に優れている

○優れている

2者

1/1

調査実施項目	新しい地図帳 2東書		楽しく学ぶ 小学生の地図帳 46帝国	
	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	○	・紙面上の4名の登場人物と先生の他に、はかせや冒険船の船長等のキャラクターを登場させ、地図活用の手掛かりを例示するとともに、着目したり考えたりして学びを促す発問を掲載し、主体的な学びが期待できる紙面構成とされている。	◎	・紙面上の4名の登場人物が着目したり考えたりして学びを促す発問を掲載し、主体的な学びが期待できる紙面構成とされている。 ・教師役の「スパロウ先生」による「問いかけ」によって、「地図マスターへの道」として、自学自習で地図帳活用のスキル・社会科の知識や見方考え方が身につけさせられることが期待できる。
	○	・世界の州ごとの地図P55～68の国名等の一部に欧文表記が併記されている。	○	・世界地図P1～3及び世界の州別地図P75～84に英語表記が付記されている。 ・アメリカ合衆国の地図P85・86では、州名や主要都市名にも英語表記が付記されている。
	○	・学習に関連する資料の所在を「D(デジタル)マーク」P96で示すことで、学習内容に応じた動画、学習に役立つ情報入手でき、家庭学習等での活用が期待できる。	○	・学習に関連する資料の所在を「コンテンツメニュー」P6で示すことで、統計や地図・地球儀の使い方の動画・地図クイズ等が入手でき、家庭学習等での活用が期待できる。
	○	・3年からの使用となることをふまえ、「地図帳の使い方」P13・14で、方位や縮尺等の地図の仕組みとその意味を解説した地図学習の項が設けられている。	◎	・3年からの使用となることをふまえ、巻頭から「地図のやくそく」P9～14「地図帳の使い方」P15～18の項を設けられ、マンガも用いて説明している。
	○	・全編を通して、各地の伝統工芸品・名産品・郷土の偉人に関する記念館等を掲載し、本市に関係するものとしては、造船所、本県に由来するものとしては本居直良旧宅、桑名の餅物等の他、みかん、いちご、真珠、いせえび、あわび等の表記が詳しい。 P31・32・34・38・41 ・「日本の世界遺産」P79・80では、「紀伊山地の霊場と参詣道」を含む全ての日本の世界遺産が、写真つきで掲載されている。 ・「海底地形の説明」P70、「日本の事前災害」P97～99では、本市も震源の範囲となる南海トラフが掲載され、地域社会と連携した学習が期待できる。	○	・全編を通して、各地の歴史的建造物・伝統行事・伝統工芸品・自然等がイラストや絵図で掲載されている。本市に関係するものとしては、アイスのイラスト、神原温泉、安渡ダム、布引山脈、本県に由来するものとしては、四日市・鈴鹿のお茶、多気タッチパネル、四日市の自動車産業等産業の表記が詳しい。P43・44・46・52・53・54・55 ・「自動車産業がさかんな愛知県」P65では、愛知県の都市と工業に着目した読み取りが期待できる要素が掲載されている。 ・「日本の自然災害と防災」P91～94では、本市も震源の範囲となる南海トラフが掲載され、防災マップの作成の仕方を示すことで、地域社会と連携した学習が期待できる。
	○	・「日本の47都道府県」P5・6ではクイズ等の活動を通して、児童の興味・関心を生かした学習が期待できる。 ・資料地図では、「日本の自然」「産業」「貿易」「歴史」「文化」のテーマ別とし、「日本の自然」P69の雨温図、「日本の産業」P71・72分布図等を用い、学習のねらいを明確にした児童の自発的・主体的な学習が期待できる。 ・本市の児童が修学旅行で訪れる奈良市・斑鳩町P36、京都市P35・36の市街地図をタウンマップの手法で掲載することで、児童の自発的・主体的な学習が期待できる。	◎	・「日本の自然災害と防災」P93・94で「防災マップ」の作り方を紹介することで、防災意識を高め、自分たちの住む地域の防災についての自発的・主体的な学習が期待できる。 ・本市の児童が修学旅行で訪れる奈良市・斑鳩町P49、京都市P49・50の市街地図を掲載することで、児童の自発的・主体的な学習が期待できる。
	○	・理科で活用できる「日本の地形」P69・70、「日本の自然災害」P97～99、家庭科で活用できる「世界の料理」P64や「日本の主な郷土料理」P84、体育で活用できる「オリンピックとサッカーワールドカップ開催地の地図」P85が掲載されている。 ・「宮沢賢治記念館」P51や「滝廉太郎記念館」P26、「杉浦千畝」P63のように、国語や音楽、道徳等で活用できる人物やイラスト・記念館が掲載されている。	○	・「石川啄木記念館」P67や「荒城の月」P33のように国語や音楽等で活用できる人物・記念館が掲載されている。 ・「世界発見」P1～3では、外国語活動・外国語科との関連が図れるよう世界地図とともに、14か国の挨拶と文字、民族衣装のイラストが掲載されている。
2 使用上の便宜	○	・全102ページで、巻頭から、世界と日本のイラストマップ、日本全国、日本の地方図と都市圏図、世界地図、世界の州ごとの地図、資料図、統計資料、索引と配列されている。	◎	・全120ページで巻頭から、世界地図、日本全国、日本の地方別地図、世界の州別地図、資料図、統計資料、索引と配列されている。地方拡大図は都道府県図の当該箇所に挿入されている。 ・「日本の歴史と世界文化遺産」P101・102では、日本の主な出来事示した年表に参照するページが記載され、歴史上の事象と場所を関連付けて学習することが期待できる
	○	・A4判を採用しできるだけ地図を大きく提示し、文字や記号を大きく、広範囲を紙面に収めよう工夫されている。 ・4年間の使用に耐えうるよう丈夫な糸かがり綴じとし、折り込みページには折り目を強化する加工が施されている。	○	・A4判を採用し、情報の読み取りやすさを期待して、ワイドな紙面に収めよう工夫されている。 ・4年間の使用に耐えうるよう丈夫な製本仕様とし、折り込みページの折り目部分の表面をコーティングして補強されている。
	○	・統計資料・索引は行間をとり、見やすく使いやすい。 ・特に都道府県名は、赤の太文字で表記している。 ・「くらべてみよう日本と世界」P81・82では世界と日本の主な山・川・島・高い建物等を、視覚的にも比較しやすい資料を掲載するなど、資料集としての充実を図っている。	◎	・見開き右ページの右端に、地図の種類ごとに色分けしたインデックスをつけ、検索しやすい工夫されている。 ・索引は、都道府県名県庁所在地名・国名を赤色文字、日本の歴史地名と世界の首都名を青文字で表記している。 ・航空路、産業分布図等を掲載するなど、資料集としての充実を図っている。
	○	・ユニバーサルデザイン書体(UD)を用い、読みやすさ見やすさに配慮している。 ・色のみによる判別ではなく、形を変えて区別できるよう工夫されている。	◎	・ユニバーサルデザインを取り入れ、レイアウトの統一、文字の書体や大きさ、文面改行に配慮している。 ・地図中の地名は、ユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすさに配慮している。さらに、都道府県名と県庁所在地名は、「とめ・はね・はらい」がより正確なUD学参フォントを使用している。 ・「手話で表す都道府県」P115を設け、手話による都道府県の表し方が紹介されている。
3 その他	◎	・「日本とそのまわり」P15・16のように、海洋部分を含め、陸の高さ・海の深さを色で識別できるよう詳細に描写されている。 ・8地方区分、世界は州ごとに、地図の縮尺を統一することで、各地域の地理的理解が深められるとともに、位置関係や地域相互の結びつきを調べたり比較したりする学習が期待できる。 ・「世界地図と地球儀」P55・56では、写真で地球儀の活用の仕方を具体的に掲載している。 ・「日本とそのまわり」P15・16に加えて、尖閣諸島P18や竹島P27について取りあげられている。「日本の歴史」P77・78でも、日本の領土の変遷が掲載されている。	◎	・「広く見わたす地図」は1/160万、「都道府県を見る地図」は原則1/100万、地方拡大図1/50万と縮尺を統一することで、各地域の地理的理解が深められるとともに、位置関係や地域相互の結びつきを調べたり比較したりする学習が期待できる。 ・「世界と地球儀」P73・74では、写真で地球儀の活用の仕方を具体的に掲載している。 ・「日本の自然災害と防災」P91～94では、過去の災害事例や災害を防ぐ工夫を掲載し、主体的に防災意識を高められることが期待できる。 ・「日本の領土とそのまわり」P29・30では、日本固有の領土として、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」について取りあげられている。

算 数

調査実施項目	新しい算数 2・東書		教科書の名称 発行者の番号・略称 たのしい算数 4・大日本		みんなと学ぶ 小学校算数 11・学研	
	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を分かりやすく可視化した「今日の深い学び」が学年に3カ所設けられており、教材に即した思考や表現の課程が丁寧に表されている。(例4年上P63～67) ・主体的・対話的な学びを体験する授業開きの「学びのとびら」が分かりやすく設定してある。(例5年上P2) ・学んだことを活用して、やや発展的な課題で取り組ませている。子どもたちの意欲を高め、子どもたち個々の学び段階を設定しやすい。 ・6年生のデータの調べ方の単元(P176)をととして、どのクラスが優勝できそうか予想する構成となっている。具体的には、自分のクラスのデータから始めて、他クラスとの比較、最大値、最小値、平均値、中央値、メジアンなど一つのデータを様々な観点から分析し、優勝するクラスを予想するという流れで、統計の活用方法を体験することができるようになっている。 ・6年生の円の面積の公式を活用する箇所(P112)で、面積を求めることが可能な図形を明示することで、多くの子どもが自ら進んで面積を求めたり、自分の考えを説明したりすることが可能である。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生から、内容に「じっくり深く学び合おう!」が組み込まれており、どの学年でも多くの単元で学び合う場の設定がある。高学年になるほど多くなる。(例1年P107) ・様々な段階で学び合う内容がある。基礎的な内容は子どもが取り組みやすく、教師の授業展開の参考になる。基礎的なことを学び合うことで、理解への意欲を高められる。(例5年P108) 応用的な内容は学んだことを発展的に活用する課題を用意しており、個々の学びの段階を設けられる。(例5年P19) ・2年生以上では、「ひらめきアイテム」で考え方のコツをアイテム化させ、それらを活用して課題解決を促している。各2年生以上の巻末に「アイテム集」があり、切り取って他学年でも使える。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・算数にかかる9つの「見方・考え方」を「一つ分を作る」「そろえてみると」「分けてみると」「まとめてみると」「別の表し方にする」「数や形などを変えてみると」「同じようにできないかな」「きまりはあるのかな」「どうしてそうなるのかな」に整理し、9体のモンスターでわかりやすく表している。 ・算数の「見方・考え方」が定着しやすいように配慮されている。(例3年上P63「2年生で学習したたし算と同じように考えられないかな。」「は、同じようにできないかな」に分類される)(例5年上P55「比例の考え方を使っているね」は、「どうしてそうなるのかな」に分類される) ・子どもの活動が「見つけたいな」「やってみたいな」「確かめたいな」「調べたいいな」「考えたいいな」「深めたいいな」「話し合いたいいな」「説明したいいな」など明記されている。
(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年から発達段階を考慮して、図、表、式などの数学的な表現を用いた考えを提示し、算数の特質を生かした言語活動の例として示してある。ノートづくりとノートの活用を促す「算数マイノート」において、学習過程で働かせた数学的な見方・考え方の振り返りの例を示し、思考力・表現力を高める工夫が示してある。(例4年上P66～67、1年下P53) ・ほぼ全てのページに数学的な考え方や見方が、発音の形で掲載されている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・低中学年ごとに、話し合いのポイントが示されており、発達段階に沿った話し合いができるようになっている。(各学年巻頭ページ) ・1年生の「たしざん」で初めて考えを説明する活動があるが、セリフで言い方が紹介され、どう言えばいいかを掴みやすい。(1年P108) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考える、班で考える、クラスで考え説明する場面が「自分で考えたいな」「自分で考えたいな」「クラスで考えたいな」と明記されており、話し合う、聴く、自分の考えを理解してもらえように話すことに配慮されている。(例5年上P109)
(2)言語能力の育成を図るための工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育について、5年生、6年生に単元との関係性を持たせた、「プログラミングを体験しよう」が設けられており、独自のデジタルコンテンツが準備されている。コンテンツへのアクセスはDマークを見つけ、表紙裏のQRコードからという流れで、一元化されている。(例5年下P134) ・数学的活動の支援、学習効果の向上、基礎・基本の定着、つまずきへの対応、統計・プログラミング教育などのデジタルコンテンツを多数活用できる。(例5年下P45「面積の求め方を考えよう」) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングにふれる活動を全学年に取り入れている。段階を追って学べる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングにふれる活動を全学年に取り入れている。段階を追って学ぶことができる。
(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各時の展開が、焦点化された課題、補助発問、まとめ、振り返りという構成が徹底されており、めあてと振り返りの整合性が図られている。(例4年P22～23) ・各時の終わりには「学習の振り返り」が設けられており、学習を価値づけたり、次の学びをつくり出ししたりする児童の姿が例示されている。(例4年下P99) 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「発見!」「まとめ」が毎時間提示されている。 ・「学び合う」流れが教科書に明示されているので、どのように学習活動を進めていけばいいかが分かり、子どもが主体的に活動できる。 ・学び合ったあとの振り返りでは、ノート例が提示されており、どのようにまとめればいいのか参考になる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の各所に「～したいな」といった学習活動、めあて、まとめが明記されている。
(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末に「いかしてみよう」というページが設けられているところがあり、学習したことを日常で活かすことができる。(例2年下P71) ・既習内容が理解されているかを確認するために「おぼえていたかな?」というページが設けられている。巻末に答えがあり家庭学習で活用できる。(例4年下P17) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「おうちで算数」が設けられており、学習したことを家庭でも活用することで家庭学習を促すことができる。子ども個人で学習するのではなく、家族とともに学んだことを確認できる良さがある。(例1年P39、3年P68) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の初めに、「?を発見」という、問題を発見するページが設けられており、さまざまな事象を算数の問題としてとらえ、数学的活動に繋げることができる。(例4年下P60)
(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「つないでいこう 算数の目」(例5年上P95)は、その単元で学んだことを一般化してとらえる内容である。その後の学習につなげたり、生活の中で算数を利用したりする意識を育てられる。また、「ますりん通信」(例6年P168)は、算数の学習に関連する話題や児童が気づいたり発見したりした見方・考え方が取りあげられており、児童の興味・関心が高まるよう工夫されている。 ・単元の冒頭では、対話を通して日常事象や生活経験を話題として学習意欲を高めたり、既習内容を整理し振り返りながら課題意識をもたせるようにしてある。(例4年上P74) ・巻末に「新しい算数」というページが設けられ、補充問題や子どもの興味関心を引き出す問題がまとめられている。(例5年上P125) 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふくろう先生」のなるほど算数教室」では算数に関する話題や問題を載せ、子どもたちの興味関心が高められる。(3年P24等5カ所、4年P72等6カ所、5年P30等6カ所、6年P24等14カ所) ・算数を仕事に生かしている方々へのインタビューがあり、視野を広げる機会が設けられている。(3年P204、4年P251、5年P95、6年P220) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「おうちで算数」が設けられており、学習したことを家庭でも活用することで家庭学習を促すことができる。子ども個人で学習するのではなく、家族とともに学んだことを確認できる良さがある。(例1年P39、3年P68)
(6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との関連が強い単元や教材については関連を顕のマークで明示したり、防災に関する内容を取りあげたりして、教科横断的、総合的なカリキュラムとなるようにしている。例(英語・国際理解4年上P13)(理科4年上P21)(防災・減災教育4年下P122) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科へのつながりを「リンク」で一目で確認できる。(例6年P24) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「おうちで算数」が設けられており、学習したことを家庭でも活用することで家庭学習を促すことができる。子ども個人で学習するのではなく、家族とともに学んだことを確認できる良さがある。(例1年P39、3年P68)
(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の最初の2単元は、A版の分冊で書き込み式になっており、使いやすく、教科書及びノートの出し入れの時間短縮もつながる。また、ノート指導の素地に役立つようになっている。入学当初の児童が教科書を使って円滑に学習できるようにしている。 ・目次が表紙の裏にある。単元の番号、ページが色分けされており、認識しやすい。各単元に前後の学年での学習が明記されており、関連や系統性がよく分かる。索引も裏表紙裏にあり、調べやすい。 ・ユニバーサルデザインの字体が読みやすく、書き写しもしやすい。 ・ページ数と他の数字が区別しやすいように、白抜き文字を用いたデザインとなっている。使用する色数や淡い配色、シンプルな記号や基本図形など、学習に集中しやすいようにしてある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年1冊の教科書にまとめられているので、学びを継続しやすい。また、一年間の見直しを持って学習への意欲を高められる。保護者にも、何をいつ学習するのか伝わりやすい。 ・インデックスに単元名があり、色や模様でも区別されている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・AB版を使用し、横に広い教科書であり、グラフ等教科書に書き込みをしやすい。
2 使用上の便宜	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・目次が表紙の裏にある。単元の番号、ページが色分けされており、認識しやすい。各単元に前後の学年での学習が明記されており、関連や系統性がよく分かる。索引も裏表紙裏にあり、調べやすい。 ・ユニバーサルデザインの字体が読みやすく、書き写しもしやすい。 ・ページ数と他の数字が区別しやすいように、白抜き文字を用いたデザインとなっている。使用する色数や淡い配色、シンプルな記号や基本図形など、学習に集中しやすいようにしてある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年1冊の教科書にまとめられているので、学びを継続しやすい。また、一年間の見直しを持って学習への意欲を高められる。保護者にも、何をいつ学習するのか伝わりやすい。 ・インデックスに単元名があり、色や模様でも区別されている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・AB版を使用し、横に広い教科書であり、グラフ等教科書に書き込みをしやすい。
3 その他	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・その教科書の特徴(記述) 				

調査実施項目	教科書の名称 発行者の番号・略称		
	小学算数 17・教出版	わくわく算数 61・啓林館	小学算数 116・日文
	理由	理由	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	○ ・学習が「問い」の連続でつくる数学的活動による構成となっている。学びと学びをつなげる手だてや言語活動を豊かにする考え方が盛り込まれている。(例4年上P25) ・「算数で使いたい考え方」(例3年上P6)が子どもの言葉で示されており、「算数のミカタ」(例3年下P60)では、各領域を貫く数学的な見方を示している。	○ ・巻頭に「教科書の使い方」「学習の進め方」「わくわく算数学習」「わくわく算数ノート」が設けられ、問題解決型の学習を通して、自分の考えを書いたり話ししたりして理解が深まっていくことを体得しながら、よりよく考える資質・能力を伸ばしていくことができるように配慮されている。 ・巻末「学びのサポート」の「算数資料集」には、「わかりやすい説明の仕方」「図のかき方」「算数でよく使う考え方」などが整理して掲載されている。	○ ・「自分でみんなで」では、筋道を立て、考え、表現するための学び方をはっきり示している。また、各ページの右側に側注を配し、「何に着目し、どのように考えていけばよいか」が分かるようになっている。そして、発表の仕方や話し合いの観点を具体的に示し、思考力、判断力、表現力が一層育つように工夫してある。(例5年上P30)
○ (2)言語能力の育成を図るための工夫	○ ・「算数で使いたい考え方」を提示し、数学的な考え方を引き出す言葉を整理しながら、学び合いに活用できるようにしている。(例4年上P6) ・多様な考えのつなげ方、広げ方、深め方に役立つ「学びを深める問い」(?マーク)が、子どもの言葉で示されている。(例4年上P120)	○ ・2年生以上の教科書の巻頭には「学習の進め方」「わくわく算数学習」を続けて設定し、「みんなで話しあおう」として対話による考えの交流のようすが具体的に示されている。(例3年上P7)さらに、その直後には「わくわく算数ノート」が掲載され、書いて考えを深める力の育成に役立つように配慮されている(例3年上P8) ・2年生以上の教科書の上巻巻末に設定された「算数資料集」「わかりやすく説明しよう 友だちの考えをよく聞こう」(例3年上P148)では、考えを伝えるときのわかりやすい説明の仕方がまとめられ、筋道立てて説明する力やポイントを押さえて聞く力などを育成できるように配慮されている。	○ ・自分の考えを表現・説明できるように、巻末には、「算数で使いたい言葉・考え方」を設け、分かりやすく表現するための指針とした。 ・結果や方法の見直しを立てたり、考えたことを話し合ったりするための着眼点を「カギマーク」や子どもの吹き出しで示してある。(例4年下P103、4年下P48)
○ (3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫		◎ ・紙面にQRコードを掲載し、ICT機器を使った学習のサポートができるような動画、補充問題等の参考情報を準備している。特に、単元の入口では、「じゅんび」に関する情報を、単元の出口には、「たしかめよう」に関する情報が用意されている。(例4年上P104、P117)	
◎ (4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	◎ ・既習事項を振り返りやすく、知識・技能を繰り返し使い、学びと学びを系統的に繋げている。学んだことよさや考え方を振り返る4コマ漫画で、単元や領域を貫く見方や考え方を意識付けしている。(例2年上P21)	○ ・各時間の学習に「めあて」や「まとめ」が言葉で明示され、児童が見通しを持って振り返りながら主体的に学習が進められるように配慮されている。	○ ・各学年上巻巻頭に問題解決的な学習の展開例を示した「さあ、算数の学習を始めよう」や、ノートの書き方を示した「算数ノートをつくらう」を設け、見直しを持って算数の学習を進め、学習の振り返りができるように工夫されている。また、ノート例は、上巻だけでなく下巻の巻頭にも掲載され、いつでも学習の仕方を振り返ることができるようになっている。
◎ (5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫		◎ ・掲載されているQRコードをタブレット等で読み取ることで、家庭学習でもレディネスチェックや復習ができるコンテンツが利用できる。	○ ・単元で習得した知識や技能を用いて取り組む「ハロー！算数」では、学習したことを生活の場面に活かし、算数の楽しさを実感できるようになっている。(例3年上P88)
○ (6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○ ・採算開き教材では、問題解決の楽しさを味わいながら、学習の進め方・学び方、算数を学ぶ態度について学級で共有できるようになっている。 ・「脚注コラム」(例2年下P64)「算数ワールド」(例2年下P54)、「広がる算数」(例6年P246)など、様々な視点から興味・関心を高め、問題解決の楽しさを味わったり発展的な問題に挑戦したりできるように工夫してある。		○ ・一人ひとりの学習状況に応じた取り扱いができるよう、2年以降の巻末には「算数マイトライ」が設けられ、「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」の3段階のレベル別に学習ができる。(例5年下P137) ・6年P202「マテランドを探索しよう」は、テーマごとにまとめられた話題から、個人やグループの興味・関心に応じて課題を選択しながら進められる。
○ (7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫		○ ・6年生の巻末で、他教科との関連、キャリア教育の一環として、アーティスト、スポーツ、ピアニストなど様々な職業の方が算数を活用していることが分かる内容を紹介している。	
2 使用上の便宜		○ ・低学年では興味・関心の持続性を考慮して、1つの単元はできるだけ少ないページ数で構成されている。また、高学年では、関連する内容を連続させたり、同一の単元内で扱ったりすることで、関連づけながら理解できるようにしている。	
◎ (3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫		◎ ・巻末の切り取り教具には、場面にに応じて、丈夫な厚紙や透ける薄紙、プラスチック素材などが使用され、児童が活動しやすくなっている。(例4年上 分度器、5年年 円周測定マシン)特に4年生のプラスチック製の分度器は、児童全員が同じ分度器を使用することができるため、指導がしやすい。	◎ ・上巻巻末には、問題解決的な学習を進めるための着眼点をまとめた「学び方ガイド」が添付されている。切り取って下じきのように使用し、いつでも見られるので、問題解決的な学習過程をより明確にする役割を果たしている。
◎ (4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮			
3 その他			
◎ その教科書の特徴(記述)			

理科

教科名 [理科]

調査実施項目	教科書の名称 発行者の番号・略称											
	新しい理科 2・東書		たのしい理科 4・大日本		みんなと学ぶ 小学校理科 11・学園		未来をひらく 小学理科17・教出		わくわく理科 61・啓林館			
	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由		
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	・思考の過程を分かりやすく明示することなどによって、他者と話し合いながら見通しをもつて主体的に学びを進めることができるよう工夫されている。			○	・単元毎に育成したい資質・能力をしばって具体的に明示し、理科の学び方が分かるよう工夫されている。	○	・主な児童が他者と話し合いながら学びを進める過程を単元毎に示し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて工夫している。	○	・課題を解決する過程を分かりやすく示すことなどによって、他者と話し合いながら主体的に学びを進めることができるよう工夫されている。	
	(2)言語能力の育成を図るための工夫	◎	・自らの考えをまとめて話し合う展開を分かりやすく示し、深い対話が実現するよう工夫されている。 ・発表・話し合いの仕方やノートの書き方などを詳しく示し、理科の言語能力が向上するよう工夫されている。						○	・各学年の巻頭において国語科の学習を生かした理科の学びを明示し、言語活動の充実を図るよう工夫されている。		
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫					○	・QRコードからプログラミングソフトを簡単に立ちあげることができ、プログラミングを気軽に学習することができるよう工夫されている。			◎	・QRコードを読み取ることによって既習の内容や器具の使い方などの様々なコンテンツを簡単に利用することができ、ICTを活用した学習活動を効果的に展開することができるよう工夫されている。 ・巻末資料を振り返り使ったり、QRコードからプログラミングソフトを簡単に立ちあげたりすることができ、プログラミングを平易に学習することができるよう工夫されている。	
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・各単元の始めと終わりにおいてねらいと振り返りを分かりやすく示し、見通しをもつて学習に取り組むよう工夫されている。								◎	・各単元の始めと終わりにおいてねらいと振り返りを分かりやすく明示し、見通しをもつて学習に取り組むことができるよう工夫されている。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫			○	・実験・観察などの活動や各種資料の内容が充実し、家庭や地域社会と連携した学習につながるよう工夫されている。							
	(6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫					○	・ものづくりを効果的に配置し、自主的・自発的な活動が促進するよう工夫されている。				◎	・学習した内容が日常生活に生かされている事例などを分かりやすく紹介し、理科の有用性を感じるよう工夫されている。 ・学習した各学年の内容を生かす「ものづくり」を掲載し、学ぶ意義を実感することができるよう工夫されている。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫			○	・他の教科や上位の学年などにおいて学ぶ内容を鑑別した番号も付して分かりやすく示し、関連を意識するよう工夫されている。			◎	・他の教科や上位の学年などにおいて学ぶ内容を分かりやすく示し、関連を意識するよう工夫されている。 ・中学校において学習する幅広い内容を効果的に示し、興味・関心をもつよう工夫されている。			
2 使用上の便宜	(1)内容の配列、分量についての特徴									○	・季節や地域の状況などを踏まえて適切に単元を配列し、無理をせずに学習することができるよう配慮されている。	
	(2)判型、分冊等、造本上の特徴			○	・AB判を用いて使いやすさを確保しつつ軽量化に努め、身体的な負担の軽減に配慮されている。					○	・AB判を用いて使いやすさを確保しながら重量を抑え、身体的な負担の軽減に配慮されている。	
	(3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫								○	・巻末資料などを分かりやすくまとめ、興味・関心をもつよう工夫されている。	◎	・目次や巻末資料などを使いやすくまとめ、興味・関心をもつよう工夫されている。
	(4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮	◎	・振り仮名を効果的に使用し、読みや日本語の習得に困難があっても主体的に学習を進めることができるよう配慮されている。			○	・本文や器具の使い方を分かりやすく示し、順を追って思考することに困難があっても主体的に学習を進めることができるよう配慮されている。				○	・QRコードのコンテンツを利用し、日本語の習得や順を追って思考することが困難であっても学習のまとめなどを行うことができるよう配慮されている。
3 その他	その教科書の特徴（記述）										○	・分かりやすいイラストや図表などを使用しているとともに、本市や本県、近隣する府県の写真を多く掲載している。

生 活

調査実施項目	教科書の名称 発行者の番号・略称												
	あたらしい生活 2・東書		たのしいせいこつ 4・大日本		みんなとまなぶ 11・学図		せいこつ 17・教出		せいこつ 38・光村		わたくしとせいこつ 116・日文		
	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎ ・「学びをふかめるコーナー」により、生活科における深い学びをイメージすることができる。 ・「まなびい」「ずかんちゃん」というキャラクターが、吹き出しで身につく力を表している。							○ ・「どうすれば」のコーナーには、児童が自分で考える工夫が記載されている。また、学び方のヒントにもなる。		◎ ・「わくわくボックス」のページで、児童の「やってみよう」という主体的に学ぶ気持ちを引き出す。 ・「めくれば」により、活動の中で生まれた気づき、思いが次の活動につながるよう工夫されている。	○ ・どのページも見開きの左下に学習のめあてが書かれていて、児童自らが課題を見つけている。 ・「見つける・例える・比べる…」といった考えるための技法の例が示されている。	
	(2)言語能力の育成を図るための工夫	○ ・観察カードの書き方、目のつけ所、ポイントが具体的に示されている。 ・「すくろく、絵本、新聞等、まとめ方がたくさん紹介されている。									○ ・「きらきらことば」「せいこつことば」に関連する言葉を紹介している。語彙力を増やす。 ・児童自身の言葉を引き出す工夫がされている。	○ ・作文や手紙、ポスター等、学習したことを多様な方法(言語活動)を使って表現することを促している。 ・教師の板書の例がたくさん示されている。 ・ペアやグループで交流しているイラストや写真、対話が多い。	
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫										○ ・タブレットパソコンを用いたり、テレビに写真を写したりして発表する等、ICTの活用を促している。 ・QRコードを掲載し、家庭でも主体的に学習できるよう工夫されている。		
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○ ・どのページも「?〜かな。」と活動のめあてを載せているので、見通しをもつことができる。 ・振り返りカードの例が多く、振り返りをするのに役立つ。							○ ・サイコロの中に活動ごとのめあてが書かれていて、分かりやすい。 ・単元ごとに個人の振り返りの記述欄が設けられている。「まなびい」の0〜100の目盛りで振り返りができる。	○ ・「ホップ・ステップ・ジャンプ」の3段階で構成されていて、学習の流れを意識できる。 ・「振り返りをシールに書いて貼る」という工夫がされている。	○ ・「わくわく、いきいき、ぐんぐん」の3段階構成になっていて、学びのプロセスを意識できる。 ・「できるかな、できたかな」のコーナーで振り返りができる。	○ ・「ふりかえる つなげる」で気づきを深めると共に、次の課題をもち学習意欲を継続することができる。 ・「〜をふりかえろう」のページで、これまでの学習を振り返ることができる。	
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	◎ ・「つながる、ひろがる」や「やってみよう」のページで、家庭との連携を大切にしている。 ・保護者向けQRコードで、保護者にも情報提供をしている。										○ ・学校で学習したことを家の人に話す場面があり、家庭との連携に配慮されている。	
	(6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○ ・特設コラムで児童の知的好奇心を喚起する。										○ ・「やってみよう」というような写真が効果的に用いられている。 ・「〜かな?」という問いかけや、ライト・カメラなどのしかけが興味・関心を引き出す。	○ ・単元の導入では、児童のやってみようという気持ちを引き出す効果的な写真を使用している。 ・「私たちが育てられるかな?」等、主体的な取組を意識させる言葉が掲載されている。
(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○ ・他教科と関連した活動がある。 ・どの教科と関連しているのか教科名も記載されている。										○ ・他教科と関連した活動がある。 ・どの教科と関連しているのか教科名も記載されている。	○ ・他教科と関連した活動がある。 ・どの教科と関連しているのか教科名も記載されている。	
2 使用上の便宜	(1)内容の配列、分量についての特徴												
	(2)判型、分冊等、造本上の特徴											○ ・AB判で、適切な大きさである。 ・低学年の児童も開きやすい。	○ ・AB判で、適切な大きさである。
	(3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫	◎ ・目次は季節ごとに色分けされ、マークも掲載されている。 ・巻末の「べんりてちよう」に必要な技能や学び方がまとめられている。										○ ・目次は、シンプルで見やすい。 ・巻末の「がくしゅうずかん」には、豊富な資料が掲載されている。 ・点字も紹介されている。	◎ ・目次は、単元名と関連マークが記載されていて児童に分かりやすい。 ・巻末の「ちえとわざのたからばこ」に豊富な資料が載せられている。見つけたら印をつける等、関心を高める工夫がある。 ・点字も紹介されている。
	(4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮	◎ ・板書例の所に学習の流れが見える化されている。 ・UDフォントが使用され、CUDにも配慮されている。 ・インクの臭いが少ない。										○ ・UDフォントが使用され、CUDにも配慮されている。 ・インクの臭いが少ない。 ・デジタル教科書も用意されている。	○ ・UDの観点で教科書体に準じたフォントが使用されている。 ・CUDにも配慮されている。
3 その他	その教科書の特徴(記述)	○ ・スタートカリキュラムが充実している。 ・保護者向けの説明が多い。 ・育成すべき三つの資質と能力が吹き出しとイラストで具体化されている。										○ ・順序をつけて考えたり、分類したりする方法が例示され、プログラミング的思考力の育成が意識されている。 ・同一児童が2年間登場するという工夫がされている。	○ ・スタートブック(上巻)とステップブック(下巻)が充実している。 ・順序をつけて考えたり、分類したりする方法が例示され、プログラミング的思考力の育成が意識されている。

音 樂

教科名 [音楽]

調査実施項目	教科書の名称 発行者の番号・略称				
	音楽のおくりもの 17・教出	小学生の音楽 27・教芸			
	評価	理由	評価	理由	
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・3年以上の「音楽のもと」として見開きにメモ欄があり、児童が気づいたことを書くことができ、友だちと話し合い、めあて等を共有して主体的、対話的に進められるように構成されている。 ・「まなびナビ」「学び合う音楽」として具体的な活動を示すことで、児童が主体的に見通しを持って学習できるように工夫されている。 ・音楽づくりでは各学年に「音のスケッチ」が載せられており、発達段階に応じて、音をつなげて旋律をつくったり、音の重なりや全体の組み立てなどを工夫してまとまりのある音楽をつくりあげたりするなど、他の児童と思いや考えを出し合いながら活動ができるように構成されている。 ・リズムの学習を、発達段階に応じて深められるよう系統立てて構成されている。また、「歌詞のリズム」と「伴奏としてのリズム」を混同しないよう表記する配慮がなされている。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・1年「音楽でみんなとつながろう」のように他者とのつながりを意識した表題や活動が示され、対話的な学びにより、学びを深めていけるように工夫されている。 	
	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き取ったことや感じ取ったことなどを言葉で表現するヒントとなるように、2年以上の巻末に「音楽を表すいろいろな言葉」が掲載され、言語活動が充実するよう工夫されている。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の意味を詳しく書き表すことで、曲想を捉え、自らの表現したいという思いや意図につなげられるように配慮されている。 ・鑑賞では、気をつけるポイントを示し、感じたこと・気づいたことを言語化しやすいように問いかける表現が添えられている。 	
	○	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に関わることを、図書館やインターネットなどでさらに調べる学習活動が示されている。 			
	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・見開きごとの学習のめあて、題材ごとの学習の見通しや新出事項が見やすく示され、活動が分かりやすく、学習の見通しが持ちやすい。また、児童が興味を持つようにカエルマークにより、関連する以前の学習の振り返りができるように工夫されている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年に「ふりかえりのページ」があり、学習した内容が一目で分かるとともに、学習したページが書かれていることで、振り返りに活用しやすいよう工夫されている。 	
	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かすことにより曲への理解を深めたり、音の高さを手の動きで表すことにより旋律の流れの変化を理解したりすることができるよう構成されている。 			
	○	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年に、アンサンブルや合奏曲を多く掲載し、児童の実態に応じて扱えるように工夫している。 ・巻末の「音楽ランド」には、合唱や合奏に取り組める曲などが多彩に取り上げられており、児童の実態や興味関心、また行事や季節などいろいろな場面に応じて選択し取り組むことができるようになっている。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとのつながりを意識した表題や活動が示され、思いや意図を持って、自主的、自発的な学習ができるよう促している。 ・音楽づくりでは「旋律づくり」が載せられ、系統立てて学習できるよう構成されている。 ・低学年は「よびかけ」「音の重なり」を、中学年は「音色」「旋律の重なり」が感じられるように、高学年では「和音の響き」を意識できるよう工夫されている。 ・高学年の歌唱では、曲想にあう声の響きを、自分自身で意識して表現させる工夫がなされている。 	
	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・2年を除いた各学年の音楽ランドの冒頭に「Short Time Learning」として英語の歌を取りあげること、外国語科・外国語活動との関連を図り、児童が英語に親しむことができるように工夫されている。 ・2年では九九を歌にした曲が掲載され、算数科で学習することと関連させた意外性を感じると同時に、音楽をより身近に感じるよう工夫されている。 ・5年「日本の民ようをたずねて」では、産業につながる内容と捉えられる仕事などについて調べる学習活動が示されており、社会科や総合的な学習の時間との関連が図られている。 			
2 使用上の便宜	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの指導に入って間もない段階で、ドレミの3音を下第1線、第1線、第2線の3線を用いて表すことから、音の高さを視覚的に捉えやすくして、五線譜への導入を図っている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年とも同じ場所に楽典が掲載され、振り返りや学習をまとめるのに活用しやすい。 	
	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年は、縦の長さを抑えることで、扱いやすく軽量化を図り、児童の負担を軽減する姿勢がうかがえる。 ・3年以上は、見やすくAB版にサイズアップしているが、軽量化されている。 ・学習する内容がわかりやすい透明シーや全学年最後にある見開き、3年のふじ山など歌詞の意味や曲想を捉えるのに効果的な折り込みの写真から、児童の興味関心を高める工夫がみられる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・音符や挿絵が大きく掲載されている。また、笛が立体的で見やすい作りになっている。 	
				○	<ul style="list-style-type: none"> ・目次の示し方が整理されており、シンプルで見やすく作られている。 ・1年間の学習を児童の活動別に分類して見通しが持てるように配置し、それらが身につけていく姿を音楽の木の成長として学んでいく自分と重ねてイメージさせる工夫が施されている。
	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルフォントを取り入れた紙面により、視覚に困難さのある児童にも分かりやすく見やすい配慮がなされている。 ・鍵盤ハーモニカの鍵盤上に階名が記されており、導入する際の配慮が見られる。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しく覚えること」「そだてよう」「合わせよう」等、活動する内容や方向性が短く捉えやすい言葉で簡潔に示されている。 ・リコーダーの学習において紙面ではとらえにくい息遣いを生活経験からイメージしやすく示し、色使いや絵も視覚的に捉えやすく配慮されている。 	
3 その他	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の民よう、お祭りをたずねてのページを設け、2学年にわたって日本各地に歌い継がれている民謡等を紹介することで、日本や郷土の文化を大切にする態度が育まれるよう工夫されている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・裏表紙には、「わたしたちが受けつぐ」と題して、日本各地の伝統音楽の紹介が載せられ、継承されている文化を受け継いでいこうとする気持ちが育まれるよう工夫されている。 	

图画工作

教科名 [図画工作]

調査実施項目		教科書の名称 発行者の番号・略称			
		図画工作 116・日文		図画工作 9・開隆堂	
		評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見だして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	・写真が子どもの表情を詳しくとらえたもの、創造活動の手元をとらえたもの等、様々な活動場面の写真と吹き出しが、発想や構想を深められるように配置が工夫されている。 ・造形的な活動場面で児童が相談し話し合う姿、鑑賞で会話する様子がたくさん掲載されていて、対話的な学びにつながる工夫がされている。		
	(2)言語能力の育成を図るための工夫	◎	・感じたこと、想像したことを大事にしながら自分の思いを言葉で整理しながら表現できる題材が配置されていて、言語活動の充実が図られている。		
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	・インターネットの活用や情報の受信・発信における情報モラルについて説明がある。写真も具体的で分かりやすい。	○	・カメラやムービーといった機器を扱う教材もあり、児童の興味関心をひく工夫がされている。
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・題材ごとに「学習のめあて」が3つの観点で示されていて、主体的に造形活動ができるように工夫されている。また、活動を通して感じたり考えたりしたいことを、対話を通してまとめられるようになっており、言語能力の育成を図れるように工夫されている。	○	・題材ごとに「学習のめあて」が3つの観点で示されていて、どのような力を伸ばしていくのかが分かりやすい。題材の最後には「ふりかえり」が設けられていて他の児童や指導者との対話を通して学びのまとめができるようになっており、言語能力の育成を図れるようになっている。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	◎	・多くの学年に「図画工作のつながりひろがり」という題材で地域や校内での活動に広がる活動が紹介されており、地域の文化を大切にし、地域と協働して活動が行えるように例が示されている。	○	・図工の作品を家庭で後で使えるようなものが紹介されている。
	(6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	◎	・発想のヒントにつながる「ひらめきポケット」が設定されている。ヒントが具体的で、写真を見ると「どうなっているのだろう」「やってみたいな」と興味関心を持つことができる。		
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	◎	・平和やユニバーサルデザイン、環境に関する題材があり、総合的な学習や社会科との関連が図られている。	◎	・ユニバーサルデザインや平和などに関する題材があり、総合的な学習や社会等との関連が図られている。
2 使用上の便宜	(1)内容の配列、分量についての特徴	◎	・作品だけのページが少なく、児童が様々な表情で活動している写真が多く、「やってみよう」という意欲を高められる。		
	(2)判型、分冊等、造本上の特徴	◎	・1つの題材は見開き2ページのに掲載されているので、児童にとって分かりやすい。		
	(3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫	◎	・巻末の「つかってみよう材料と用具」では、工夫した用具の使い方や安全な使い方について詳しく説明されている。	◎	・目次が大きく見やすい。題材の内容が色で表わされていて印が簡潔で分かりやすい。
	(4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮	◎	・外国につながる児童の写真掲載がどの学年にもあり、さまざまな国の児童が共に学び合うことが自然に感じられ現代社会に適している。 ・造形的な活動場面の写真と吹き出しが、発想のヒントとなるように示されている。吹き出しが黄色に色づけされていて、写真と吹き出しが重なっていても分かりやすい。	○	・すっきりとした印象で、意識が散らないレイアウトがされている。情報が多すぎないので、混乱しにくい。
3 その他	その教科書の特徴（記述）	◎	・1・2年上巻頭には幼児期の経験や学びを振り返るページ、5・6年下巻末には中学校への学びのつながりを意識できるページが設定されている。 ・ほとんどの題材で「きをつけよう」「かたづけ」が設けられ、安全で適切な扱いができる。		

家 庭

【様式1】

小学校用教科用図書調査実施項目結果一覧表

教科名 [家庭科]

◎特に優れている ○優れている

2者

1/1

調査項目	教科書の名称 発行者の番号・略称			
	新しい家庭 5・6	2 東書	小学校 わたしたちの家庭科	9 開隆堂
	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	◎	・生活をよりよくしようとする資質・能力の育成に視点をあてた内容である。 ・「活動」では、学習したことを活用して考えたり、調べたり、話し合ったり、交流する活動があり、主体的・対話的な学びにつながる活動が工夫されている。 ・実習後に「できたかな」の自己評価の記述がある。	○	・家庭生活や家族の題材が最初であり、生活を見つめ直すことから学習を始めることができる。 ・実習後に「できたかな」の自己評価の記述がある。
	◎	・家庭科に関する用語の解説があり、分かりやすく簡潔な表現で記載されている。 ・学習のまとめとして、友達や家族、地域の人々への発表・発信も含めた言語活動の充実につながる活動がある。 ・重要な語句は、太字で記載されている。	○	・重要な語句は、太字で記載されている。
	○	・「Dマーク」の表記がある項では、インターネットを活用して基礎技能などの動画による学習が可能になっている。	◎	・思考力の伸長、知識・技能の定着のための「QR」マークが記載の事項は、単元ごとの動画資料が豊富に準備されている。 ・プログラミング学習を視野に入れた表記となっている。
	◎	・問題解決型的な学習の実現に向けて、各題材の学習の流れが3ステップ（「見つめよう」「計画しよう・実践しよう」「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」）で構成され、実生活に活用できる力の育成をめざしている。 ・各ステップには「めあて」と「ふりかえろう」が明示され、主体的に無理なく学習を進める工夫がなされている。 ・各題材における各ステップに合わせて、計画的に児童の「活動」が示されているため、見直しをもって学習することができる。 ・学年末にも振り返りがあり、自分の成長を実感できるよう工夫されている。	○	・問題解決型学習の実現に向けて、各題材の学習の流れを3段階（「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」）で構成されている。 ・各題材には、3段階による学習のめあてが明示されて主体的に学べる工夫がされている。
	○	・各題材の終わりに、「生活をかえるチャンス！」があり、家庭や地域と関わりながら実践していく取組の記載がある。 ・「プロに聞く！」では、社会で活躍している方の考えや思いを知る記載がある。		
	◎	・学習内容に関係する「資料」が写真や詳細な説明が随所であり、応用・発展的な学習につながり、児童の興味・関心を促すことができる。	◎	・学習内容に関係する「参考」となる資料があり、発展的な学習につなげることができる。 ・「ひとロメモ」には、学習内容に関連した用語の解説や用具、歴史などの記載があり、興味・関心を促す記載がある。
	◎	・教科名及び学年、学習内容の記載があり、他の教科や中学校との関連を図る工夫がある。 ・家庭科に関連する言語が、絵と英単語で脚注に表示され、次のページに日本語訳が示されている。	◎	・教科名及び学年、学習内容の記載があり、他の教科や中学校との関連を図った記載がある。 ・家庭科に関連する言語が、絵と日本語、英単語で表示されている。
2 使用上の便宜	◎	・基礎的・基本的な内容の習得から、応用・発展的な学習へと系統的に配列されている。 ・テーマごとにまとめられ、単元名が子どもたちの関心をひきつける表記である。		
	○	・A4判、無線綴じ。 ・見開きの状態で実習の学習ができる。		
	◎	・本文の129ページに加え、巻末資料が15ページあり、資料が充実している。 ・写真や図表、イラストとが鮮明で分かりやすい。		
	◎	・右利きと左利きの両者の用具の使い方が表示されている。 ・用具の扱い方が分かるように、実寸大写真である。また、写真とイラストを組み合わせた表記のため、わかりやすい。 ・各ステップが図示されているため、見通しを持ちやすい。 ・色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から配色やデザインに工夫がなされている。	○	・右利きと左利きの両者の用具の使い方が表示されている。 ・特別支援教育や色覚の多様性に配慮し、ユニバーサルデザインの観点から工夫がなされている。
3 その他	◎	・環境学習、安全学習、防災、伝統文化、キャリア教育に関する記載がある。 ・イラストや写真は、グローバル化に対応するとともに、役割が固定化がされないよう配慮されている。	○	・環境学習、安全学習、防災、伝統文化、キャリア教育に関する記載がある。 ・活動や作業において、事故防止や安全面を配慮した事項の記載がある。

保 健

調査実施項目	教科書の名称 発行者の番号・略称			
	みんなの保健 224・学研		新しい保健 2・東書	
	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	○	・学習の流れを「ここで学ぶこと」で確認し、「つかむ」で身の回りや普通の生活を手がかりに課題に気づき、「考える・調べる」で課題解決の仕方を身につけ、「まとめる・深める」で身につけた知識をまとめ、他者へ伝えながら自分の生活に繋げるという流れで学習できるようになっている。 ・自分の生活をチェックできる表が数カ所(中学年3ヶ所、高学年2ヶ所)に設定されており、自身の生活を振り返って考えることができる。(中学年P6、P9、P30) (高学年P40、P42) ・小単元の終わりには、自分の経験を振り返りながら学習を深められるように工夫されている。	○	・学習内容、資料、書き込み欄がバランスよく配列されており、4つのステップで授業を構成することができるようになっている。 ・資料が豊富でそれを活用しながら、じっくり学習することができる。 ・表で自分の生活をチェックできる(中学年1ヶ所、高学年2ヶ所)
	○	・「ことば」という欄を設け、大切な言葉を一文程度で説明している。(中学年P21等) ・書く欄を多く設定し、表現力を養えるように工夫されている。	○	・教科書に直接記述できる欄が多く、書く活動により表現力を養うことができる。
			○	・QRコードの読み取りにより、動画や関連サイトへのアクセスができる。 ・ネットによる犯罪被害を図説して詳しく取りあげている。
	○	・単元の最終ページには「ふり返る・深める・つなげる」として自己評価等を書き込めるページがあり、学習したことを考えながら振り返ることができる。 ・学習のマークが豊富に設定されていたり、「楽しく学ぼう」で簡潔に学習の進め方が記述されていたり、学習の見通しが立てやすくなっている。		
	○	・生活習慣と安全に関する内容が充実している。 ・初めて保健を学習する中学年では、自分の実態から学習に入るの、学習内容が分かりやすい。 ・「実験・体験的な学習活動」が多く設定されているので、学習内容を自分で確かめることができる。 ・地域の防犯・防災の取組が詳しく取りあげられている。(中学年P35、P36) (高学年P26、P27)		
			○	・「生活リズムをチェックしよう」では表を使って振り返ることができる。(中学年P14) ・絵や文字が大きくて見やすく、活用しやすい。
	○	・1年間に伸びた自分の身長を計算し、算数科で学習する内容を生かして考えることができる。 ・他教科と関連した学習内容は、その語句の近くに「関連」というキーワードが記されており、他教科の学習内容と結びつけて考えられるようになっている。		
2 使用上の便宜	◎	・教科書の記入欄が大きく、自分の考えを十分記入できる。学習内容の分量も適度である。		
	○	・全ページがカラー印刷のA4版で、写真やイラストも大きく見やすい。		
	○	・学習する内容をイメージできるように、単元名の下に問いかけが示されている。 ・各単元に「もっと知りたい調べたい」という詳細な資料が見開きで2ページ分掲載されている。また、「かがくの目」という科学的な資料も掲載されている。 ・資料は、単元の終わりにまとめて掲載されており、必要に応じて見ることができる。		
			○	・カラーユニバーサルデザインとUDフォント、インクルーシブ教育等への配慮がされている。 ・「個人差」や「共生」に配慮した視点で記述されている。(高学年P7)
3 その他	○	・現代的な諸課題として、いじめについても取りあげている。 ・未習の漢字にはルビが用いられている。		

調査実施項目		教科書の名称 発行者の番号・略称					
		たのしい保健 4・大日本		わたしたちの保健 207・文教社		小学保健 208・光文	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	○	・各単元の初めには、見開き1ページ分の大きなイラストがあり、イラストを見ながら対話ができるように工夫されている。			○	・「考えよう」「話し合おう」という見出しを設定し、子どもたちが自分の考えを持ち、対話を通して考えを深められる学習パターンになっている。 ・高学年は単元の初めに必ず自分の生活から考えられるように、投げかけが設定されている。
	(2)言語能力の育成を図るための工夫						
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫						
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫			○	・「わたしの○○宣言」として、自分がこれからどう生活するのか記入する欄がある。(中学年P16、P32)(高学年P13、P26、P52)		
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫						
	(6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫						
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫						
2 使用上の便宜	(1)内容の記列、分量についての特徴	○	・教科書に書き込める量、記載している内容量が適切である。 ・ページ数が適度である。			○	・書き込む量、記載している内容量が適切である。 ・ページ数が適度である。
	(2)判型、分冊等、造本上の特徴						
	(3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫						
	(4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮					○	・カラーユニバーサルデザインとUDフォント、インクルーシブ教育等への配慮がされている。
3 その他	その教科書の特徴(記述)	○	・生命の尊重として巻末に読み物教材を取り入れている。				・巻末に共生について考える内容が掲載されている。

道 德

調査実施項目		教科書の名称 発行者の番号・略称			
		小学道徳 ゆたかな心 208・光文	新・みんなの道徳 224・学研		
		評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫			○	・教材文の最後に特設ページ、「深めよう」「やってみよう」「つなげよう」「広げよう」が数多くあり、対話的、多面的、体験的に学習できる機会が設けられている。「深めよう」は、どのように話し合いを進めればよいかを考える手助けとなる。また、「つなげよう」「やってみよう」は自分だったらどう考えるか、何とどうするかを考える機会となっている。
	(2)言語能力の育成を図るための工夫	○	・1年生から「言葉の宝物」のページがあり、ことわざなどの言葉が紹介されている。教材文の最後にコラムがあるものもあり、考えを深めたり広げたりすることができる。 ・低学年では、お話が場面ごとに分けられたり、吹き出しがあつたりして、読み取りやすくなっている。 ・イラストを効果的に使い、自分の成長を捉えられるように工夫されている。 ・一つの意見だけでなく多角的な意見が掲載されていて、一つの事柄について考えを深めやすくなっている。	◎	・主題名を題材の冒頭に掲載しないことで、道徳的価値観を概念的に理解させるのではなく、児童自らが課題を見つけ、考え、議論できるよう配慮されている。 ・お話を最後まで書かず、続きを児童に考えさせることで自分の考えを持てるよう工夫されている。 ・異なる複数の意見を示し、自分ならどうするか考えさせることで、物事を多面的・多角的に考えることができるように工夫されている。 ・学年の発達段階に応じて、役割演技や立場を決めてその気持ちを考えるなど児童が自分の考えをもったり、いろいろな立場で考えたりできるよう工夫されている。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫				
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫			○	・巻頭には、「道徳の学習が始まるよ」「これが今の私」があり、道徳の学習に対する見通しや自分を見つめる機会がある。 ・巻末には「心の宝物」で1年間を振り返るページなどがある。 ・生命の尊重では、学年ごとに設けられた重点項目について、学習後に考えたことを書くスペースが用意されている。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫				
	(6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫			○	・読み物教材だけでなく、劇をする教材や大きな写真、イラスト、漫画など児童の興味・関心をひく工夫がされた題材が掲載されている。 ・児童が興味をもち学習に取り組めるよう、現在活躍している人に生き方を学ぶ教材が掲載されている。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫				
2 使用上の便宜	(1)内容の配列、分量についての特徴			○	・生命の尊重については、全学年で複数の教材が続いて取り扱われ、重点的に指導できる構成となっている。また、各学年で重点項目が設定されており、複数の教材がまとめて掲載されている
	(2)判型、分冊等、造本上の特徴			○	・A4版で大きく見やすい写真や挿絵が多い。巻頭に、美しい写真と学習への期待を高める文章をはじめ、イラスト、漫画、写真など学習を深めやすい教材が掲載されている。
	(3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫				
	(4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮			○	・学年に応じ、ポイントが変えてあり、読みやすい（【大】低学年→中学年→高学年【小】）。 ・難易語句は、教材文のすぐ近くの上か下で解説がされている。 ・ユニバーサルデザインフォントを採用している。 ・学年で学習する漢字や固有名称には、ふりがながつけられている。
3 その他	その教科書の特徴（記述）	○	・情報モラルとして、1年生ではスマホやゲームの使い方やルール、2年生ではネットマナーやルール、6年生ではスマホの使用時間やグループ外しなど、全学年で扱っている。 ・いじめに関しては、1年生から取り扱い、特に、コラムとして「ちびまるこちゃんと考えよう」というページが設けられている。 ・1年生より災害から身を守ることを取り扱い、2年生からは豪雨災害や震災の内容を各学年で取り扱うなど、過去の災害から学ぶ機会を設けている。 ・三重県に関連した、「2年桑名の水郷」「5年吉田沙保里選手」「5年鈴鹿市のアルバム復元」などの内容が紹介されている。	◎	・「いのち」と「ともに生きる」を重点項目としてまとめられており、生命の尊さ、いじめの防止についてさまざまな教材を通して学習が深まるよう工夫されている。 ・いじめ防止につながる教材が、各学年複数取り扱われており、各学年に応じ、実際に起こりそうな場面設定された教材が掲載されおり、友達との関わりを考えられるよう工夫されている。 ・防災教育については、近年日本で起きた東日本大震災、阪神淡路大震災、熊本地震に関わる教材が複数学年で記載され、自分との関わりで考えられるように工夫されている。 ・情報モラルについては、パソコンを使うときや個人情報を扱うとき、SNSやLINEを使うときと、学年に応じて具体的でわかりやすい場面設定された教材が、掲載されている。 ・全学年を通して、表紙と教材の中に同じ登場人物が繰り返し掲載され、登場人物とともに成長が感じられるような構成となっている。 ・三重県に関連した、「4年吉田沙保里選手」や「4年海がめの命」「5年紀伊山地の霊場と参拝道」などが掲載されている。 ・図やグラフ、地図などが教材の中に取り入れられており、子どもたちの考えや議論を深めるための手助けになることが期待できる。

調査実施項目	新しい道徳 2・東書		教科書の名称 発行者の番号・略称 かがやけみらい 小学校道徳 11・学図		小学校道徳 はばたこう明日へ 1.7・教出		
	評価	理由	評価	理由	評価	理由	
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫				○	・興味関心や問題意識を高める導入の問いかけ、また学びの手引きとして発問例を設けた「考えよう」「探めよう」により、道徳的価値を意識することができるよう工夫されている。 ・適宜散けられている「やってみよう」では動作化により共感すること、「つなげよう」では日常生活とつなげることが意図されている。 ・キャラクター「とりどり先生」を冒頭と振り返り場面で登場させ、気づきや疑問などのヒントを示すことで、思考を促して考えを引き出すよう工夫されている。	
	(2)言語能力の育成を図るための工夫	○	・イラストからストーリーを考えたり、ゲーム的要素を入れながら推論したりするなどの読み物教材とは違った形式の活動型教材を導入している。				
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫						
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫						
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫			○	・『まなび』のP2には全学年「おうちの人から」の欄、巻末には「保護者の方へ」のページが設けられ家庭との連携について配慮されている。		
	(6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫						
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫						
2 使用上の便宜	(1)内容の配列、分量についての特徴						
	(2)判型、分冊等、造本上の特徴						
	(3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫						
	(4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮						
3 その他	その教科書の特徴（記述）	○	・人間関係を築くための学習活動ページ「出会う・ふれ合う」が全学年に2か所ずつ掲載されている。 ・日常生活から自然災害まで、安全・防災について取り扱われている。特に震災関連では、実話をベースにした教材となっている。 ・いじめに関しては全学年で取り上げ、各学年とも「とびらのページ」での導入、直接的教材、間接的教材の三つの要素で構成し、いじめをしない・許さないを強く推している。 ・地域性に配慮し、各地ゆかりの教材が配置されている。6年生の巻末付録には吉田沙保里選手が掲載されている。	○	・LGBTについての理解やインクルーシブ教育、国際理解教育等、個性の尊重や互いを認め合う視点での教材が掲載されている。 ・いじめを許さない心を育むよう、「公正、公平、社会正義」の内容項目で、身近な題材や絵本、伝記、人権に関する教材等、多面的に掲載している。 ・1～3年で各1教材、4～6年で各2教材の情報モラル教材を扱い、実際に起こりそうな身近な出来事を掲載することで意識を高められるよう工夫されている。 ・地域性に配慮し、各地ゆかりの教材が配置されている。4年生では、野生動物と人の共存をめざす教材に三重県内の近鉄の取組が掲載されている。5年生では、吉田沙保里さんのエピソードが教材となっている。	○	・直接的、間接的にいじめ問題と向き合う教材が、発達段階を考慮しながら各学年とも複数掲載されている。 ・電話や学級新聞、メールなど、身近な題材での情報モラル教育が各学年で扱われている。 ・防災教育は、4～6年生で計4教材取り上げられている。 ・地域性に配慮し、各地ゆかりの教材が配置されている。4年生では吉田沙保里選手、6年生では松浦武四郎が掲載されている。

調査実施項目	きみがいちばんひかるとき 38・光村		教科書の名称 発行者の番号・略称 小学道徳 生きる力 116・日文		小学生の道徳 232・廣あかつき		
	評価	理由	評価	理由	評価	理由	
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫						
	(2)言語能力の育成を図るための工夫		○	・問題解決的な学習の手法を用いるのに適した教材の後ろの「学習の手引き」は、1年生では、①いけないところを見つけよう。②いけないところについてかんがえてみよう。2～4年生では、①問題をつかもう。②問題について考えよう。③問題の解決をめざそう。5・6年生では、①問題をつかもう。②自分なりに考えよう。③問題について話し合おう。④問題を解決するときにたいせつな考え方について話し合おう。と発達段階に応じて、より深く考えられるように工夫されている。 ・「心のベンチ」では、問題解決に向けて、考え方や解決の道筋を示し、話し合いを促すページが用意されている。			
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫						
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫			○	・全学年、巻頭にオリエンテーションのページとして、道徳科を学ぶ意義や学び方が、児童の発達段階に応じて分かりやすく提示され、児童が学びの見通しを育てるようになっている。 ・別冊「道徳ノート」は、あてはまる場所に色を塗ったり、丸をつけたりすることで振り返りができるようになっており、書くことが苦手でも学んだことを振り返ることができるよう工夫されている。		
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫						
	(6)児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・読み物教材だけでなく、児童の興味、関心がわくよう、漫画形式の教材や見開き1枚絵や写真などの多様な教材が掲載されている。特に、高学年では、折り込みの写真が掲載されており、迫力がある。 ・読み物だけでなくグラフや表が、掲載され、児童が自分のこととして考えやすくなっている。 ・児童が興味をもち学習に取り組めるよう、スポーツ選手など現在活躍している人に生き方を学ぶ教材が掲載されている。				
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫						
2 使用上の便宜	(1)内容の配列、分量についての特徴						
	(2)判型、分冊等、造本上の特徴			○	・A B判を採用し、イラストや図版が大きく掲載されており、見やすい。 ・全教材、見開き単位となっており、児童や教材に集中しやすい。 ・ブック・イン・ブック形式で製本され、別冊「道徳ノート」が本冊にちょうど収まるようになっている。収納しやすい。 ・別冊「道徳ノート」は、書くことを通して、自分の考えや友だちの考えを確かめることができるようになっており、1年生の1学期は、文字の記入以外の方法で記入できるようになっている。また、自由記述欄設けられており、いろいろな学習スタイルに対応することができる。		
	(3)目次、索引、注、巻末資料等の工夫						
	(4)特別な配慮を必要とする児童等への配慮						
3 その他	その教科書の特徴（記述）	○	○	・「人との関わり」を重点テーマとし、各学年3回、いじめ防止のユニットが配置されている。 ・いじめを直接的に扱う教材、間接的に扱う教材、いじめ防止に関するコラムを組み合わせ、集中的に学習することにより、多様な切り口からいじめ防止について考えられるようになっている。 ・低学年では、身近な友達との関係を軸に、善悪や親切にするとはどういうことかなどを考える教材、中学年では、仲間同士や、学級内での人間関係について考える教材、考え方の道筋を考える教材や、集団内での役割について考える教材が用意されている。 ・防災教育については、東日本大震災、阪神・淡路大震災に関わる教材が掲載されている。特に、4年生と6年生では、小学生の活動や生活が描かれており、自分のこととして考えられる教材である。 ・情報モラルについては、各学年で扱われている。教材の後ろに「心のベンチ」という資料が付いている学年があり、メールのマナーを考えたり、メールの返信をどのように書くのか考えたり、メールの使い方を話し合わせたり、情報モラルについて確かめたりできるようになっている。	○	・情報モラルとして、1年生では「けいじばんのらくがき」、2年生では「みんなのニュースがかり」など、情報の取り扱いについて掲載されている。 ・いじめについては、低学年・中学年では仲間はずれや友達同士のトラブルを取り扱い、高学年になっていじめを取り上げた教材を掲載している。 ・特集として1年生から、交通安全や遊ぶ場所、不審者など、自分の身を自分で守ることについて考えられるような内容を取り扱っている。 ・三重県に関連した「1年吉田沙保里選手」「6年兵後さんのパラリンピック」が掲載されている。	

英語

調査実施項目	教科書の名称 発行者の番号・略称					
	NEW HORIZON Elementary 2・東書		Junior Sunshine 9・開隆堂		JUNIOR TOTAL ENGLISH 11・学図	
	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	①各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎ ・児童の身近な話題を題材とし、生活の中での英語の使用場面が設定されており、主体的に学ぶ意欲をもたせるよう工夫されている。 ・単元目標に対応した「めざす姿」を設定し、目的や場面、状況等に応じて児童が既習事項を選択して表現できるようにし、主体的・対話的で深い学びの実現に対する工夫がされている。	○ ・各LessonのLet's Playでは、そのLessonでの学習内容を踏まえ、ペアやグループで自分の考えや気持ちを伝え合う活動を設定している。 ・第5学年、第6学年ともに、Project 1、2が用意され、既習の表現を使って主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう工夫されている。	◎ ・児童が自分の生活の中でも使える、将来使ってみようという意欲をもたせるような場面設定となっている。 ・各Lessonには、2〜3回のSmall Talkが組み込まれ、その単元で学んだ表現を使って主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう工夫されている。		
	②言語能力の育成を図るための工夫	◎ ・各Unitの「慣れる」(Your Turn)では、重要表現に慣れるよう、ペアワークやグループワークで、繰り返し聞いたり話したりする構成になっている。 ・各UnitのSounds and Lettersでは、児童がアルファベットの音を少しずつ学びながら、巻末のノートに書いていくようになっている。	○ ・互いの考えや気持ちを伝え合う基本的な表現や身近なものを表す表現が、2年間におわり繰り返し提示され、自分のことを伝え合う言語活動を行いやすいように工夫されている。 ・2年を通じて、活動と関連させつつ、文字、単語の書き写しから、文へと系統的に「読む」「書く」の基礎を築くようにしてある。	○ ・聞く活動が中心になっている。「基本セット」を毎時間繰り返すことで、目標表現の定着を図るよう工夫されている。 ・年間10回のAlphabet Cornerでアルファベットの読み書きを繰り返し、定着させるよう工夫されている。		
	③情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎ ・教科書及び別冊の紙面に、二次元コードやURLが示され、多くの映像や音声などのデジタルコンテンツにアクセスでき、児童が興味・関心を高められるようになっている。	○ ・各単元に視聴覚教材が用意され、音声や動画を有効活用できる工夫がされている。 ・音声や動画など学習に効果的なコンテンツが活用できるよう二次元コードやURLが表記されている。	○ ・セクションごとに示された目標表現に二次元コードが掲載され、情報端末で音声を開くようにしてある。 ・インターネットのコンテンツを活用できる「クラスルーム・イングリッシュ」等のページには二次元コードが表記され、音声を開くこともできる。		
	④学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返りやすさのための工夫	○ ・全Unitが、同一パターンで4部構成になっており、児童が活動の見通しをもちやすい。 ・Check Your Stepsでは、巻末のコミュニケーションカードを使った成果物を貼り、テーマに沿ったコミュニケーションで振り返ることができる。 ・英語で何ができるようになるかが別冊にも示され、ゴールの姿をイメージしやすい。	○ ・最初の見開きの絵でLessonの全体像を示し、最後の「ふりかえりしよう」で自己評価できるようにしてある。 ・年間の学習見通しを持ち、振り返りができるように巻頭にCAN-DOマップを示してある。	○ ・Lessonの最初に目標と学習の進め方が示され、児童が学習の見通しをもてるように、最後のCheck Timeで振り返りができるようにしてある。 ・各活動につけられている番号は、1単位時間分ずつ色分けされており、学習する量も児童にもわかりやすい工夫がされている。		
	⑤各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○ ・第5学年のUnit4〜6のテーマを「地域」とし、おすめの人・職業や施設を紹介し合うように構成されている。 ・Check Your Steps「地域のおすめを紹介しよう」の中で完成した作品を使い、地域・社会との連携を図ることができるようになっている。	○ ・第5学年のLesson8の目標を「自分の町をしょうかいしよう」とし、地域のよいところを紹介し合うようにしてある。 ・随所に地域的な話題を取り上げ、児童が自分の住んでいる地域について考えるようにしてある。	○ ・第6学年のLesson5のテーマを「自分たちの町、地域」とし、自分たちの地域でできることの紹介など、自分たちの地域について考える内容が取り入れられている。		
	⑥児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○ ・2年間を通して、日常生活や学校生活に関連する場面が多く取り入れられ、児童が、自分のこととして自らの学校生活と重ね合わせながら学ぶことができるよう配慮されている。	○ ・第5学年ではプロフィールカードを作ろう、第6学年では思い出を絵本にしよう等、題材が児童の興味・関心を高めるよう配慮されている。	○ ・各Lessonの初めの聞く活動は、児童の生活に密接に関わる場面が多く、取り上げられている。 ・Small Talkでは、身近で具体的な内容を示し、児童が興味・関心を持ってよう工夫されている。		
	⑦他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○ ・第5学年のUnit4の音楽器修復の仕事、第6学年のUnit5の食物連鎖、Unit6の栄養素の分類など他教科での既習内容との関連が図られている。 ・他教科等との関連があることがわかるようマークで示されている。	○ ・他教科との関連を意識しやすいように、LessonやActivityのタイトルの横に関連する教科がマークで示されている。 ・多様な職業を多くの箇所で示すことで、キャリア教育についての配慮がされている。	○ ・外国や日本の文化、他教科に関連する学習がマークで示されている。 ・算数科の面積や対称な図形の学習内容に「ロボットを動かそう!」を組み合わせて、プログラミング学習を意識した活動が工夫されている。		
2 使用上の便宜	①内容の配列、分装についての特徴	○ ・第5学年は「日本に暮らす私たち」をテーマに「自分・地域・日本」を紹介し、第6学年は「世界に生きる私たち」をテーマに「世界の国々・世界と日本・中学校への扉」について考える構成である。 ・各Unitごとに、「音に出会う」「会話に慣れる」「コミュニケーションを楽しむ」「世界を広げる」と続き、2〜3のUnitごとに「学びを確かめる」Check Your Stepsが配列されている。	○ ・たくさんのインプットからインテイク、アウトプットへと活動が配置されている。 ・文字、読み・書きの学習は、教科書の後半にまとめられ、初めて英語の読み・書きを学習する児童が、Lessonの中で話す・聞く活動に重点を置きやすいよう配慮されている。	○ ・各Lessonごとに、豊富なインプットの活動から始まり、「聞いて繰り返す」という簡単なアウトプット、さらに「やり取り」や「発表」といった児童が自分のことを伝えるアウトプットへと活動が配置され、段階的に進められるよう配慮されている。		
	②別冊、分冊等、造本上の特徴	○ ・別冊のPicture Dictionaryは、2年間使い続ける構成。中学校の学習にも配慮して選定された、小学校で学びたい語や表現をジャンル別に収録。持ち運びに配慮した小判にしている。				
	③目次、索引、注、巻末資料等の工夫	○ ・巻頭に、テーマと3つのまとまりを示す写真が掲載されている。 ・第5学年では、次のページで「英語ができるようになったら広がる未来」を示す写真と文が掲載されている。 ・巻末には、コミュニケーションカードが設定されている。 ・第5学年では、アルファベットの書き方、第6学年では、アルファベットチャートが記載されている。	○ ・目次の各Lessonの横に「文字に慣れよう」の表記があり、「書くこと」の学習内容が分かるよう工夫されている。 ・第6学年では、「中学校につなげよう」が巻末付録に加えられており、中学校への接続を図る工夫がされている。	○ ・巻頭に、教科書の使い方の、クラスルーム・イングリッシュ、あいさつ、アルファベットの確認、前学年での既習表現がまとめて掲載されている。 ・巻末には、毎時間行う「基本セット」の中のSongs for Lessonsの歌詞、Word List、ローマ字表が掲載されている。		
	④特別な配慮を必要とする児童等への配慮	◎ ・各Unitのレイアウトが統一され、同じ学習活動の要素を決まった位置に配置している。 ・巻末のコミュニケーションカードにシンボリ、4線ノートを巻き込みやすい取扱いするなど配慮されている。 ・文字に関しては、ユニバーサルデザイン字体を使用し、4線の幅や基線の色使いにも配慮されている。	○ ・日本語の文章表現は、文種で改行されているなど、児童が読みやすいよう配慮されている。 ・絵や写真、図が豊富に使用され、視覚的に理解を助けるよう工夫されている。	○ ・巻末のWord Listは、単語の意味を推測できるようにイラストと文字で表記されている。 ・イラストや写真が豊富に使われ、視覚的に理解を助ける工夫がされている。		
3 その他	◎ その教科書の特徴(記述)	◎ ・各Unitの最後に「世界を広げる」(Over the Horizon)が設けられ、内容に関連するクイズや英語を使う活動があり、言語の背景にある文化等をより深く学ぶことができるよう工夫されている。 ・外国で活躍する日本人や日本で活躍する外国人を登場人物に取り上げ、グローバル社会を生き抜く力を育成するという視点が重視されている。	○ ・日本語の文化や他国の文化から親しみやすいものを取り上げ、写真を多く掲載している。 ・日本の文化と他国の文化を比較する単元では、自国の伝統・文化を再発見できるよう工夫されている。	○ ・日本の文化を知り、英語で発信する活動が多く取り入れられ、自国の伝統・文化を再発見できるよう配慮されている。 ・各Lessonの最後の「Column コラム」で、世界の文化や価値、その背景にある思いにふれ、児童が多様な考え方に気づくよう工夫されている。		

調査項目	CROWN Jr. 15・三省堂		ONE WORLD Smiles 17・教出		Here We Go! 38・光村		Blue Sky 61・啓林館		
	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	①各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	○	・身近な暮らしに関する場面や、英語を使用してコミュニケーションをしようと感じられる場面設定となっている。 ・コミュニケーションの目的や場面設定が分かりやすいように、多くの挿し絵が使用されている。児童の関心をひくような登場人物の様子が描かれている。	○	・気づきと思考を促すLet's Thinkのコナーや、ペアやグループで取り組むコミュニケーション活動、協力し合いながらの活動が多く配置されている。 ・身近な活動やテーマを多く取り入れ、英語を使う必然性を感じられるよう外国の人に対し説明する場面を設定している。	○	・第5学年の児童が、オーストラリアやアメリカ、インド出身の友達と交流し成長していく内容となっている。真なる文化的背景をもつ登場人物の交流と成長、学校生活の中で協力する姿にふれることができる。	○	・各Unitには3つのPartがある。各PartのActivityでは、学んだことを児童同士で共有したり、他の児童の発表を聞いて、良いところをまねたりしながら学べるよう、ペアでの活動や発表の機会を多く設けている。
	②言語能力の育成を図るための工夫	○	・Listen&Talk→Enjoy Listening→Talk to Friendsの流れの中で、対話を通して学べるよう工夫されている。 ・音と文字の結びつきへの気づきを促す工夫として、Sound ChantやEnjoy Readingが設定されている。 ・Lessonの終わりに、「書くこと」を含むための活動が設定されている。	◎	・各Lesson末のFinal Activityで、児童自身の興味・関心や経験等を発信できるようになっている。 ・「読むこと」「書くこと」については、慣れ親しませることから始め、段階的に文字をばらばらに書いたりできるように配列されている。	○	・ターゲットとなる表現に気づくことから始まり、聞く活動→チャンツ→簡短な練習→音読活動→書く活動と、スモールステップに配慮され、繰り返し表現に慣れ親しみがながら定着が図れるよう構成されている。 ・読み書きの学習は、段階を追って繰り返し慣れ親しめるよう配慮されている。	◎	・各Unit、Listen and PlayやChantなどで基礎的な表現が明示しており、コミュニケーション活動を繰り返し行うことで、大切な表現を身につけられるようになっている。
	③情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	・教科書の随所に配置されている二次元コードをデジタル機器で読み込むことで、それぞれの箇所の単語や文の音声を確認することができるようにしてある。	○	・二次元コードやURLからウェブサイトへアクセスでき、学習に役立つ情報として音声や映像を確認することができるようにしてある。	○	・映像資料を視聴して考える活動が全Unitに設定されている。ストーリーにはアニメーション動画が活用されており、コミュニケーションの場面や状況を視覚することができる。映像の一部と音声は、二次元コードを使用して参照できるようにしている。	○	・音声を用いた教材が随所に設定されている。 ・二次元コードが掲載され、学校や家庭で情報端末を使って活用することができるようになっている。
	④学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返りやすさのための工夫	◎	・学習の見通しを立てる（HOP）→基礎的・基本的な表現の知識・技能の習得（STEP）→実際の場面英語を使用する活動とその振り返り（JUMP）といったステップで構成されている。学習の見通しを立て、英語を練習して身につけて達成感を味わえるよう配慮されている。	○	・学習の見通しをもって学べるように、各Lessonの最初に目標が明示されており、終わりには、振り返り表で、要点に沿って達成度を確認できるようにしてある。	○	・Hop!のページには単元のゴールが示されており、できるようになることを確認してから学習を始めるよう工夫されている。 ・単元ごとに振り返りチェック欄が配置されている。	◎	・単元の最後のページに振り返り欄があり、児童の学習の定着や意欲関心を確認できるようにしている。 また、教科書の最後のページで、1年間の学習で身につける力（できるようになったこと）を確認できるようにしてある。
	⑤各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	・第5学年では、各地の名所や名物に関する3ヒントクイズ等を作ってやり取りをする活動が設定されている。 ・第6学年では、観光地マップをつくり、自分たちの住む地域を紹介する活動が設定されている。	○	・第5学年では、各地の名所や名物に関する3ヒントクイズ等を作ってやり取りをする活動が設定されている。 ・第6学年では、観光地マップをつくり、自分たちの住む地域を紹介する活動が設定されている。	○	・第6学年のUnit 6では、自分たちの町の良いところを探してパンフレットにまとめるなど、家庭や地域と連携して行う学習内容となっている。	○	・身近な場面から導入を図り、抵抗なく英語にふれられるよう配慮されている。身近な人とのやり取りを中心とした場面、悪い出来事伝える場面や自分のこれからのことについて発表する場面にコミュニケーション活動がふんだんに設けられている。
	⑥児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・日常生活や身の回りの話題等といった児童が興味関心を持ちやすい内容が多く取り入れられている。 ・Panoramaでは、1枚の絵の中で、Small Talkや絵さがしゲームなどができるようになっている。 ・Storyでは、子どもたちになじみのあるお話が扱われている。	○	・自分の住む地域や日本の良いところの紹介、好きなスポーツ選手の紹介など児童が興味を持ちやすい題材が設定されている。	○	・世界12か国の小学生が各UnitのWorld Tourのコナーで、楽しみながら自分の考えを英語で話す。その姿を視覚することで、児童の学習意欲が高まるよう工夫されている。 ・Unitを支える教材Fun Timeは「文字遊び」を系統的に位置づけしており、楽しみながらアルファベットの字形、読み方、音に慣れるよう配慮されている。	○	・身近な場面から導入を図り、抵抗なく英語にふれられるよう配慮されている。身近な人とのやり取りを中心とした場面、悪い出来事伝える場面や自分のこれからのことについて発表する場面にコミュニケーション活動がふんだんに設けられている。
⑦他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	・日本の紹介や将来の夢など、社会科や道徳、総合など、他教科との関連を意識した題材が取りあげられている。	◎	・低学年の道徳科や国語科に使われる教材を、漫画やイラストとともに英語で掲載するなど、他教科で学習した語を総複習活動を行っている。 ・他教科や音楽、キャリア教育等社会科、家庭科、体育科などとの関連を図ることができる活動が設定されている。	○	・「学びをつなげよう」というコナーでは、他教科と関連づけて学習ができる。また、防災や自然理解に関する内容もあり、他教科等と学んだことが生かせるよう配慮されている。	○	・国語科、算数科、社会科等と関連した内容に加え、防災教育やキャリア教育などにも触れた題材も設定されている。	
2 使用上の便宜	①内容の配列、分版についての特徴	○	・小学校段階で学習する語彙や文構造について、音声と文で何度も触れ、インプット・アウトプットが繰り返されることで習熟を図る配列になっている。	○	・単元の構成が、映像を見て概要をとらえ、聞いて、慣れ親しむ活動から、発音する活動へという流れになっている。 ・各Lessonの題材の内容は、児童の発達段階、興味・関心について配慮されており、学年や単元が進むにつれて徐々に視点が広がっていくよう配慮されている。	○	・各Unitの最初で、Unit全体のめあてを確認してからPart 1へと進む構成になっている。短期間の活動や振り返り学習する活動が配置され、状況に応じて柔軟に使える。 各学期の最後にREVIEWが設定されており、学習した表現の復習と活用ができる。	○	・各Unitの最初で、Unit全体のめあてを確認してからPart 1へと進む構成になっている。短期間の活動や振り返り学習する活動が配置され、状況に応じて柔軟に使える。 各学期の最後にREVIEWが設定されており、学習した表現の復習と活用ができる。
	②判型、分冊、造本上の特徴								
	③目次、索引、注、巻末資料等の工夫	○	・巻末には、前の学年までに経験したことを振り返るコナーがあり、巻末は「Words & Phrases」等、様々な付録が配置されている。	○	・巻末には、クラスルーム・イングリッシュや1年間の学習目標等が掲載されている。 ・巻末には、単語や表現がまとめられており、アルファベット表・ローマ字表等資料が豊富である。	○	・巻末の「絵辞典」「ペンマンシップ・シート」「Let's play asekuroku」「学級のパスポート」等では、既習の語を振り返らせたり、水性ペンを用いて、文字を何度も書いて練習したり「英語でできるようになったこと」を確認したり、学んだことを書き込んで学年末に自分の成長を振り返ったりできるような工夫がされている。	○	・巻末のWord Listはカテゴリー別に学習する単語が一覧となっており、どのUnitで学習する単語がわかるように、Unit番号が示されている。二次元コードで単語の読み方を音声で確認することもできる。 絵を見ながら物語の内容を推測するStoryコナーが巻末に設定されている。
	④特別な配慮を必要とする児童等への配慮	○	・どこに何があるか分かりやすくするために、囲み、線、アイコンに工夫がされている。 ・どのような活動をするのか分かりやすいよう5領域を示すアイコンを使用している。	○	・書くときのアルファベットに近い形状のフォントを使用している。4線の上下幅は、4:5:4とし、書く練習もしやすいよう工夫されている。	○	・各Unitのレイアウトが統一されており、同じ種類の情報を決まった位置に配置し、児童が迷わずに学習に取り組めるよう配慮されている。	○	・文字情報、拡大教科書など、ユニバーサルデザインに配慮した教科書になっている。
3 その他	その教科書の特徴（記述）	○	・第5学年「Let's Look at the World」のコナーでは外国の学校の様子や、世界で活躍する日本人を題材として取りあげている。 ・伝統文化への関心が高まるよう日本の伝統行事を外国人の人に紹介する活動が設定されている。	○	・自国や他国への関心を高められるよう世界12か国の子どもたちの生活の様子や、世界で活躍する日本人を題材として取りあげている。 ・伝統文化への関心が高まるよう日本の伝統行事を外国人の人に紹介する活動が設定されている。	○	・英語圏のみならず、広く世界に目を向け、国際理解、伝統文化について幅広く考えられる題材が取りあげられている。	○	・英語圏のみならず、広く世界に目を向け、国際理解、伝統文化について幅広く考えられる題材が取りあげられている。

平成32年度使用小学校用教科書の発行者別一覧

発行者番号	発行者名	略称	国語	算数	理科	社会	道徳	英語	音楽	体育	図画工作	家庭	保健	生活	総合	外国語	種目
2	東京書籍	東書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
4	大日本図書	大日本															4
9	開隆堂出版	開隆堂									○	○					3
11	学校図書	学図	○	○	○	○	○	○	○	○							7
15	三省堂	三書															1
17	教育出版	教出	○	○	○	○	○	○	○	○							9
26	※信州教育出版社	信教															2
27	教育研究社	教研															1
38	光村図書出版	光村	○	○													5
46	帝国書院	帝国			○												1
61	新興出版林館	啓林館															4
116	日本文教出版	日文		○	○	○	○	○	○	○							6
207	文教社	文教社															1
208	光文書院	光文															2
224	学研教育	学研															2
232	廣済堂あかつき	あかつき															1
各種目の発行者数			4	5	3	2	6	6	8	2	2	2	5	8	7		60

※信州教育出版社の教科書見本の送付はありません。

採択地区別小学校用教科用図書採択状況一覧（道徳：平成30年度から使用、道徳以外の教科：平成31年度から使用）

上段：直近の採択
下段：旧採択（直近の採択と発行者が異なる場合）

種目	国語	書	写	社	会	地	図	算	教	理	科	生	活	音	楽	図画工作	家	庭	保	健	徳
採択地区	光村	東書	東書	日文	日文	東書	啓林館	東書	東書	啓林館	啓林館	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	開隆堂	開隆堂	学研	光文	光文
北勢第1	光村	東書	東書	日文	日文	東書	啓林館	東書	東書	啓林館	啓林館	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	開隆堂	開隆堂	学研	光文	光文
北勢第2	光村	東書	東書	日文	日文	東書	啓林館	東書	東書	啓林館	啓林館	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	開隆堂	開隆堂	学研	光文	光文
北勢第3	光村	東書	東書	日文	日文	東書	啓林館	東書	東書	啓林館	啓林館	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	開隆堂	開隆堂	学研	光文	光文
津	光村	東書	東書	日文	日文	東書	啓林館	東書	東書	啓林館	啓林館	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	開隆堂	開隆堂	学研	光文	光文
松	光村	東書	東書	日文	日文	東書	啓林館	東書	東書	啓林館	啓林館	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	開隆堂	開隆堂	学研	光文	光文
伊勢・度会	東書	東書	東書	日文	日文	東書	啓林館	東書	東書	啓林館	啓林館	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	開隆堂	開隆堂	学研	光文	光文
鳥羽・志摩	光村	東書	東書	日文	日文	東書	啓林館	東書	東書	啓林館	啓林館	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	開隆堂	開隆堂	学研	光文	光文
伊賀	光村	東書	東書	日文	日文	東書	啓林館	東書	東書	啓林館	啓林館	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	開隆堂	開隆堂	学研	光文	光文
尾鷲	光村	東書	東書	日文	日文	東書	啓林館	東書	東書	啓林館	啓林館	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	開隆堂	開隆堂	学研	光文	光文
熊野	光村	東書	東書	日文	日文	東書	啓林館	東書	東書	啓林館	啓林館	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	開隆堂	開隆堂	学研	光文	光文

※ 東書…東京書籍、大日本…大日本図書、開隆堂…開隆堂出版、学図…学校図書、教出…教育出版、教芸…教育芸術社、光村…光村図書出版、帝国…帝国書院、啓林館…新興出版社啓林館、日文…日本文教出版、光文…光文書院、学研…学研教育みらい